

市民の声を施策に反映
まちづくりネットモニター
を実施しました



ターゲット 16.6

令和2年9月7日

(ネットモニターに関すること)

郡山市政策開発部広聴広報課

担当：上田 利実

TEL：924-2061

※ 調査内容については担当まで。

SDGs ターゲット 16.6 「全ての人々に説明責任のある包摂的な制度を構築する」

2020年度まちづくりネットモニター（第3回調査）の調査結果をお知らせします。

○調査概要（詳細は別紙のとおりです。）

・第3回(6月17日(水)～26日(金))

テーマ	第三次郡山市食育推進計画について
目的	市民の皆さまの食育や健康に対する意識と実態を把握し、今後の取組について参考にさせていただくため
考察	「食育」という言葉を知らない方が各年代で一定程度いることから、全年代を対象に継続して周知・啓発を行っていく必要がある。
回答者数/率	329名(男性 157名 女性 172名) 91.4%
担当	保健福祉部保健所地域保健課 加藤 あゆみ TEL：924-2900



ウェブサイトに
アクセスできます。

https://www.city.koriyama.lg.jp/shiseijoho/koho_kocho/netmonitor/index.html

<まちづくりネットモニター>

郡山市では、市民の皆さまの意見等をお聞きする取り組みとして、様々な機会や方法等により実施しており、その一つとして、市民モニターの方々にご協力をいただきインターネットを活用した市政アンケートを実施しています。(モニター数：360名(男性 172名、女性 188名))

今回は、2020年度第3回目の調査となります。

2020年度まちづくりネットモニター第3回調査結果 テーマ「第三次郡山市食育推進計画について」

「食育」とは、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置づけるとともに、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることです。

本市においても「郡山市食育推進計画」を策定し、市民一人ひとりが「食」に関する正しい知識を身に付け、生涯にわたり健全な食生活の実践ができるよう関係機関との連携のもと食育を推進しております。

市民の皆さまの食育や健康に対する意識と実態を把握し、今後の取組について参考にさせていただくためのアンケートを実施しましたので、その結果についてお知らせします。
(地域保健課)

調査概要

- 調査期間 令和2年6月17日(水)～6月26日(金) (10日間)
- モニター数 360名 (男性 172名 女性 188名)
- 回答者数 329名 (男性 157名 女性 172名)
- 回答率 91.4%

【分析】

◀回答者内訳(人)▶

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	全体
男性	6	6	16	30	33	17	41	8	157
女性	9	11	41	56	37	15	2	1	172
合計	15	17	57	86	70	32	43	9	329

◀食育の認知度▶

『食育』について、「知っている」と回答した方が95.7% (315人)、「知らない」が4.3% (14人)であった。前回(2019年度、以下同じ)調査では「知っている」の回答が75.8%で、今回19.9ポイント増加した。

◀メタボリックシンドロームの認知度と予防・改善に取り組んでいる方▶

『メタボリックシンドローム』について「知っている」と回答した方が97.6% (321人)で、そのうち予防や改善に「取り組んでいる」が65.7% (211人)、「取り組んでいない」が33.3% (107人)であった。前回調査では「取り組んでいる」の回答が62.5%で、今回3.2ポイント増加した。

『メタボリックシンドローム』の認知度はどの年代においても高い。一方、予防・改善に「取り組んでいる」と回答した方は全体で7割弱にとどまり、年代別では60代以降で8割を超える結果となったが、50代以下で低い結果となった。

◀健康維持のための食生活を心がけている方▶

健康維持のための食生活を「心がけている」と回答した方が86.9% (286人)で、前回調査の82.8%から4.1ポイント増加した。年代別では10代が86.7% (14人)、20代が82.4% (14人)、30代が78.9% (45人)、40代が81.4% (70人)となり、50代以降は90%を超える結果であった。前回調査では、「心がけている」の回答が、82.8%で、今回4.1ポイント増加した。

【考察】

- ・本アンケートは経年的に実施しているが、前年度の結果と比較すると、「食育の認知度」において大幅な増加がみられた。これについては、前回調査で注釈に「食育月間・食育の日」を加えたことに伴い、「食育月間・食育の日」の認知度を問う設問と認識されたことも減少した一因と考えられる。また、2018年度の結果が96.2%、今回の調査結果が95.7%であり、「食育」という言葉を知らない方が各年代で一定程度いることから、全年代を対象に継続して周知・啓発を行っていく必要がある。
- ・年代別に見ると20代～50代では、メタボリックシンドロームや健康維持のための食生活など複数の設問において、予防や改善に向けた取組を実践または心がけている方の割合が低い結果であった。このことから、今後、特に働き盛り世代に対し生活習慣の改善につなげる働きかけが必要である。

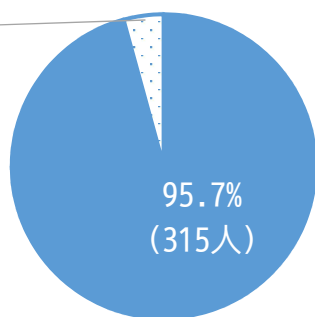
※構成比は、端数を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

第1章 認知度について

問1 「食育」という言葉をご存知ですか？（1つ選択）

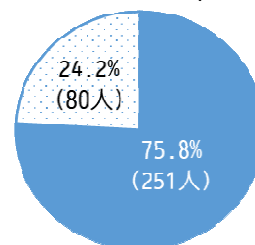
（回答者：329人）

4.3% (14人)



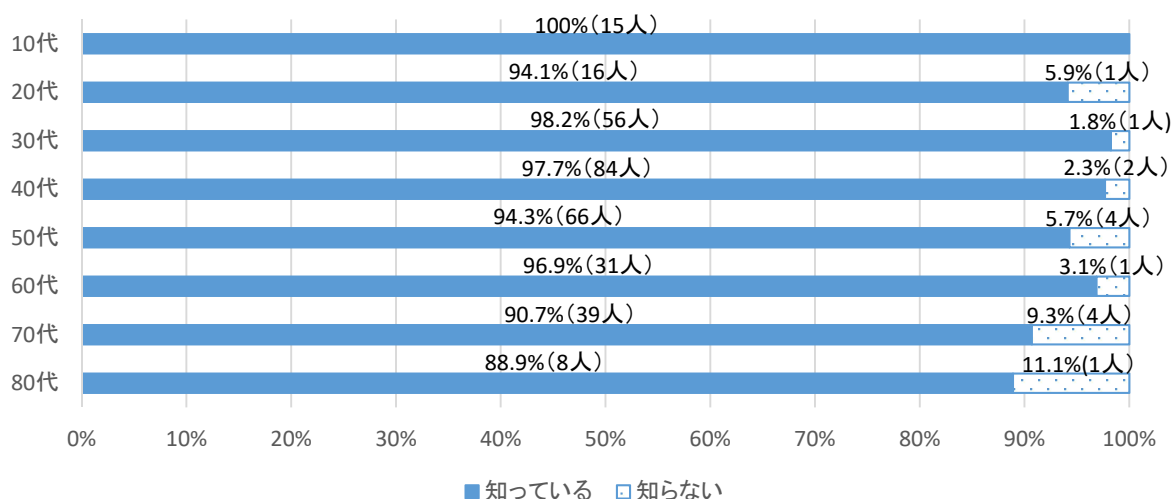
■ 知っている □ 知らない

【参考】前回調査(2019年度)

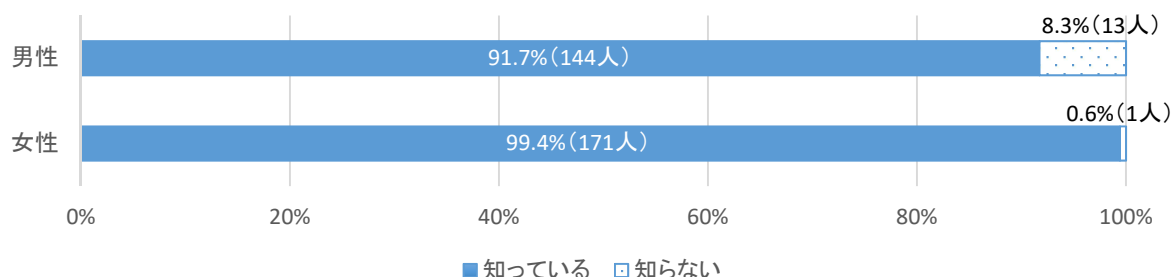


■ 知っている □ 知らない

年代別



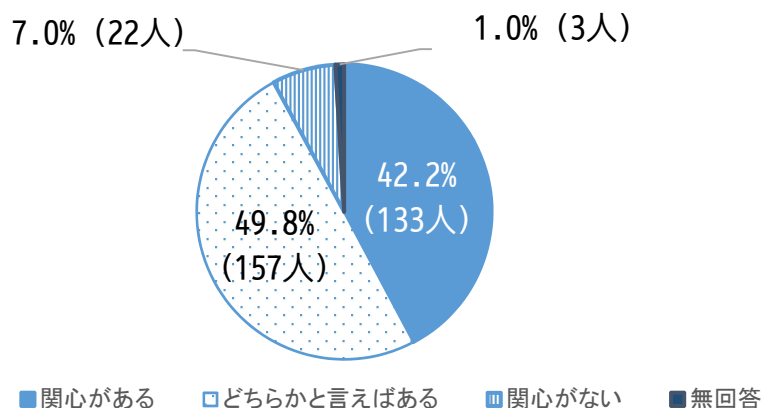
性別



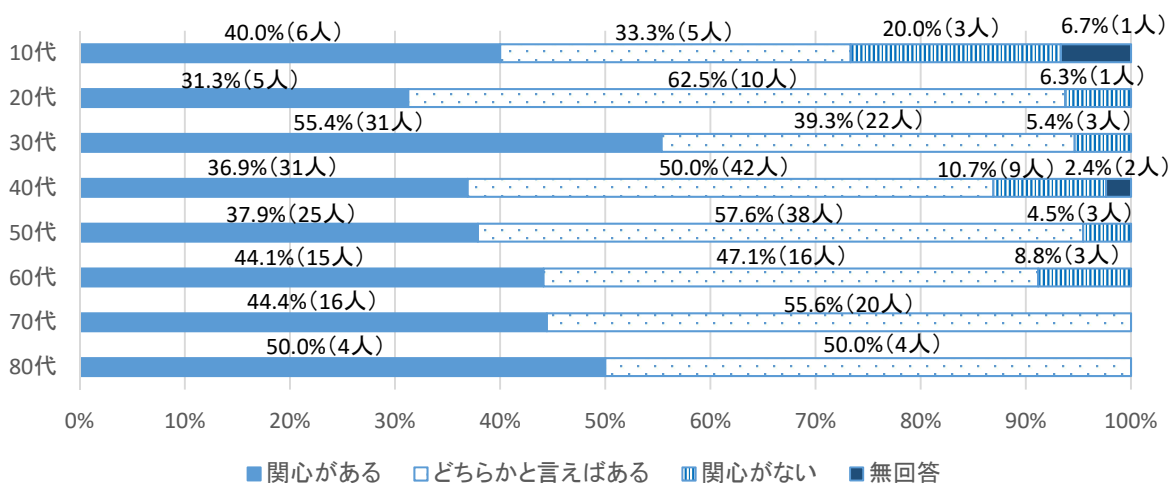
『食育』の認知度について、全体の95.7%が「知っている」と回答した。年代別では、10代の100%が最も高く、80代が最も低い88.9%となった。性別では、女性の認知度が男性より7.7ポイント高い。2018年度調査では「知っている」の回答が96.2%、2019年度75.8%、今回調査で95.7%となった。今回の調査で19.9ポイント増加しているが、2019年度調査では設問に「食育月間・食育の日」について注釈を加えたことに伴い、「食育月間・食育の日」の認知度を問う設問と認識され減少したものと考えられる。

問2 問1で「知っている」を選択した方にお尋ねします。
「食育」に関心がありますか？（1つ選択）

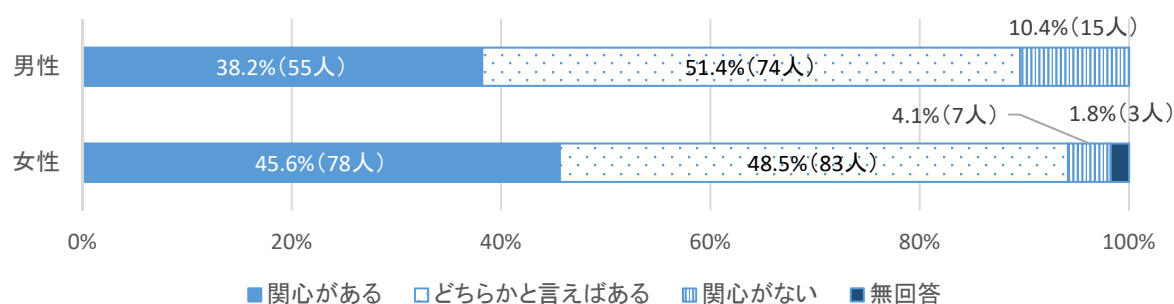
（回答者：315人）



年代別

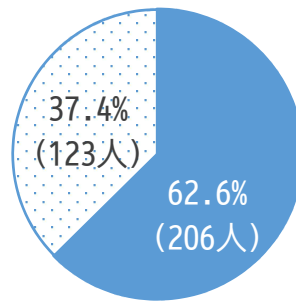


性別



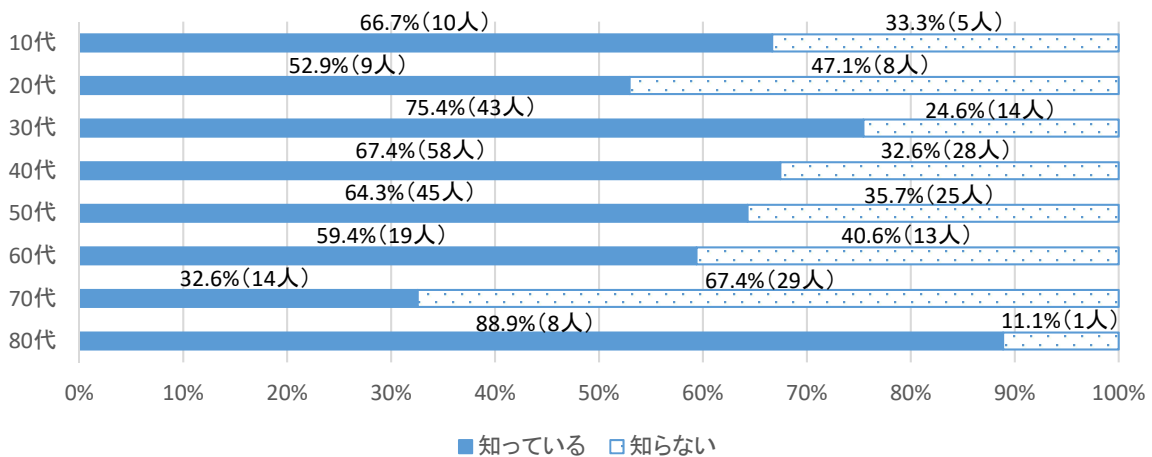
問1で「知っている」と回答した方のうち、『食育』への関心について「関心がある」「どちらかと言えばある」と回答した方は、92.0%であった。
年代別では、「関心がある」「どちらかと言えばある」と回答した方は、70代・80代の100%と最も高く、20代～60代で90%程度となっている。さらに、10代では70%程度であり、全年代の中で低い値を示した。
性別では、「関心がある」「どちらかと言えばある」と回答した方は、女性が男性より4.5ポイント高い。
前回調査では「関心がある」「どちらかと言えばある」の回答が89.6%で、今回2.4ポイント増加した。

問3 「食事バランスガイド(※)」をご存知ですか？(1つ選択)
 ※1日に「何を」「どれだけ」食べればよいのか料理ごとに区分し、コマのイラストで示したものを。厚生労働省と農林水産省の共同により策定されました。
 (回答者：329人)

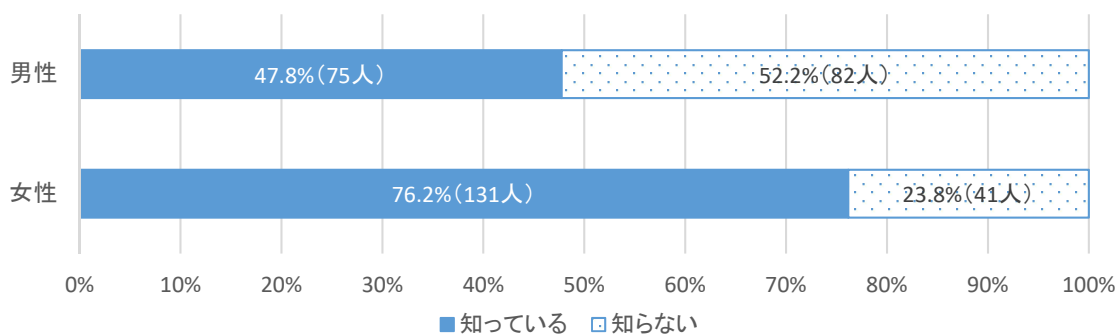


■ 知っている □ 知らない

年代別



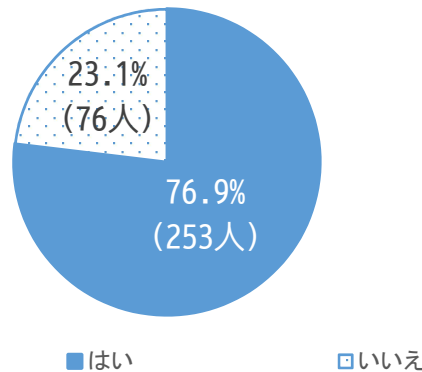
性別



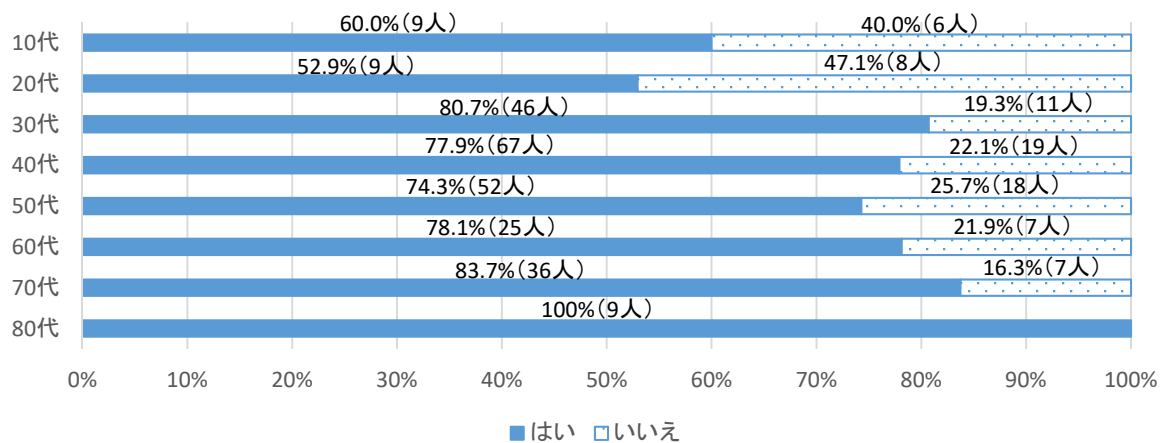
『食事バランスガイド』の認知度について、全体の62.6%が「知っている」と回答した。
 年代別では、「知っている」と回答した方が80代の88.9%で最も高く、70代の32.6%で最も低い値を示した。また、10代～60代では、「知らない」と回答した方が20～50%程度と年代により差がみられた。
 性別では、女性の認知度が男性より28.4ポイント高い。
 前回調査では「知っている」の回答が58.6%で、今回4.0ポイント増加した。

問4 自分の適正体重（※）を認識していますか？（1つ選択）
 ※身長（m）×身長（m）×22で算出される値です。

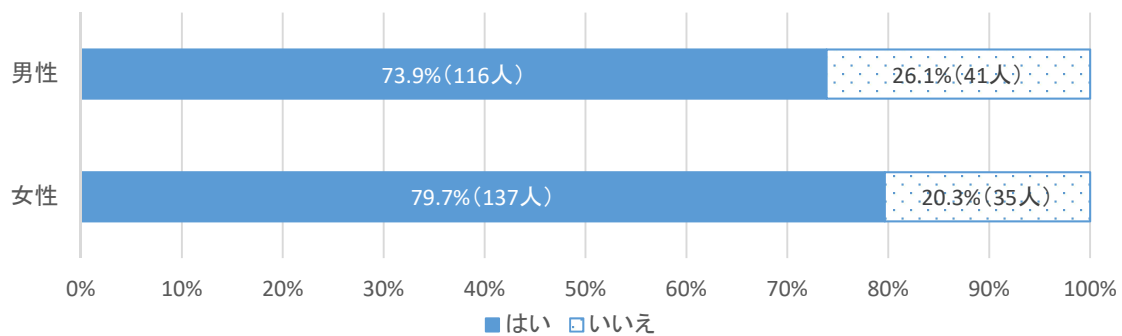
（回答者：329人）



年代別



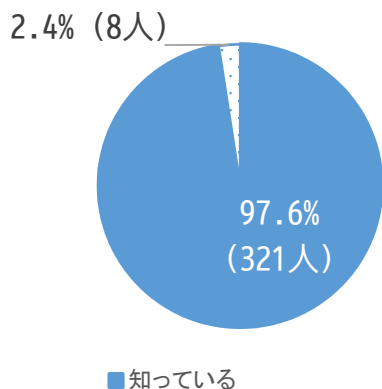
性別



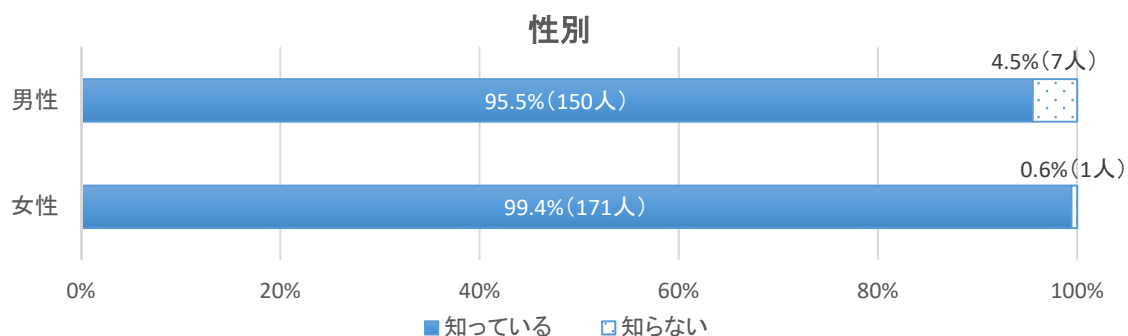
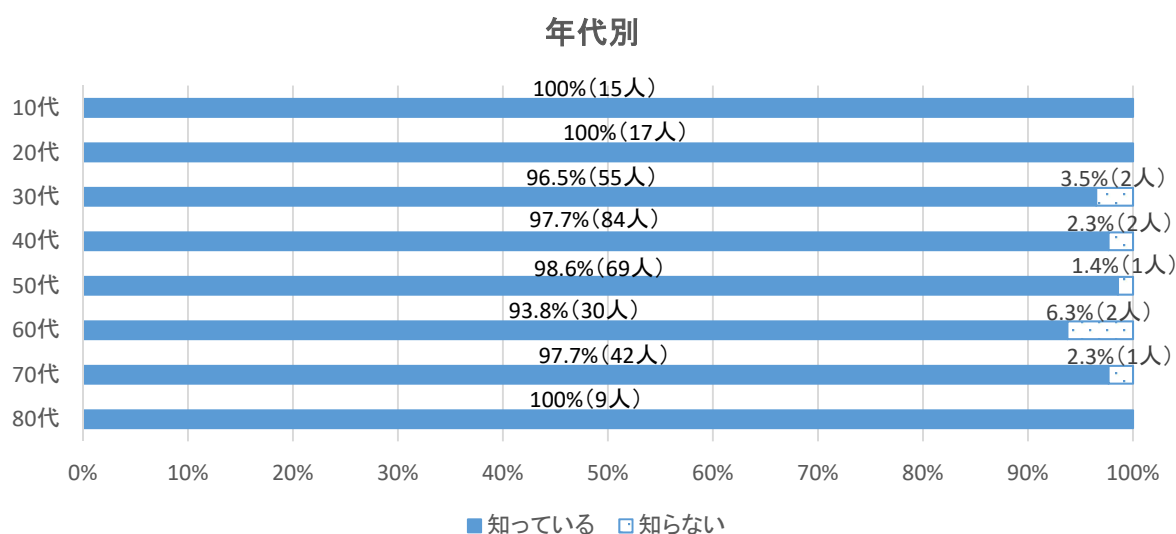
『適正体重』を認識しているかについて、全体の76.9%が「はい」と回答した。
 年代別では、「認識している」と回答した方が80代の100%で最も高く、10代で60.0%、20代で52.9%と低い値を示した。また、30代～70代では、70～80%程度の方が「認識している」と回答した。
 性別では、女性の認知度が男性より5.8ポイント高い。
 前回調査では「認識している」の回答が73.4%で、今回3.5ポイント増加した。

問5 「メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）（※）」をご存知ですか？
（1つ選択）

（回答者：329人）

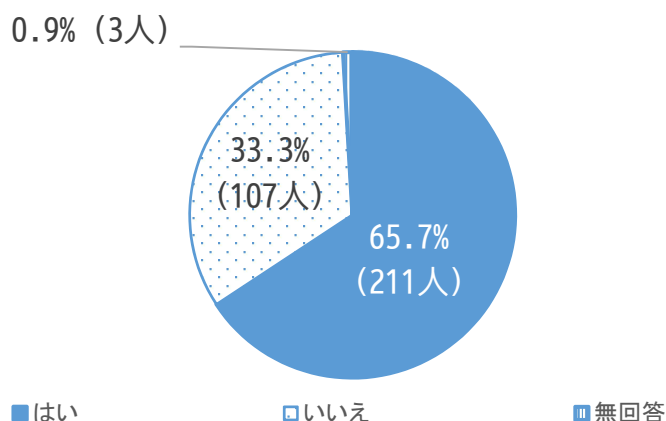


※内臓に脂肪が蓄積することに加え、血糖・血清脂質（HDLコレステロールと中性脂肪）・血圧が一定以上（HDLコレステロールは一定以下）の値を示している状態。

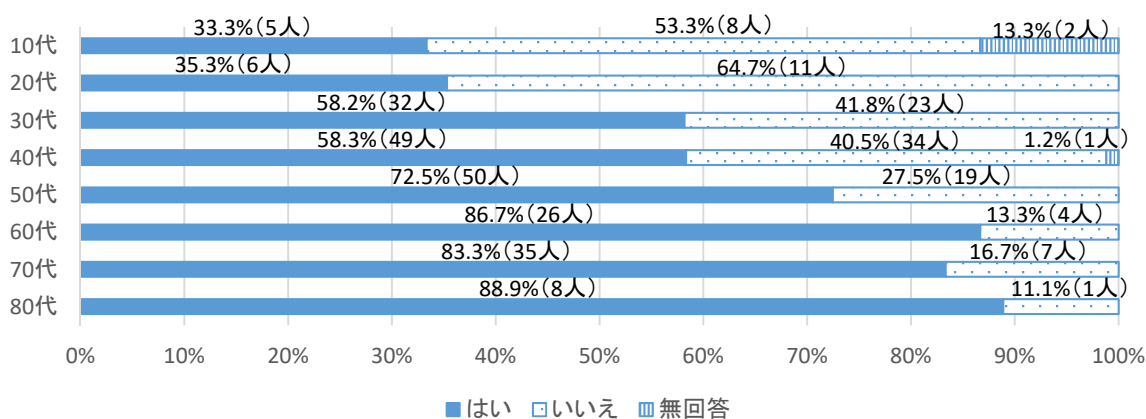


『メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）』の認知度について、全体の97.6%が「知っている」と回答した。
年代別では、全ての年代で90%以上の方が「知っている」と回答した。
性別では、女性の認知度が男性より3.9ポイント高い。
前回調査では「知っている」の回答が97.3%で、今回0.3ポイント増加した。

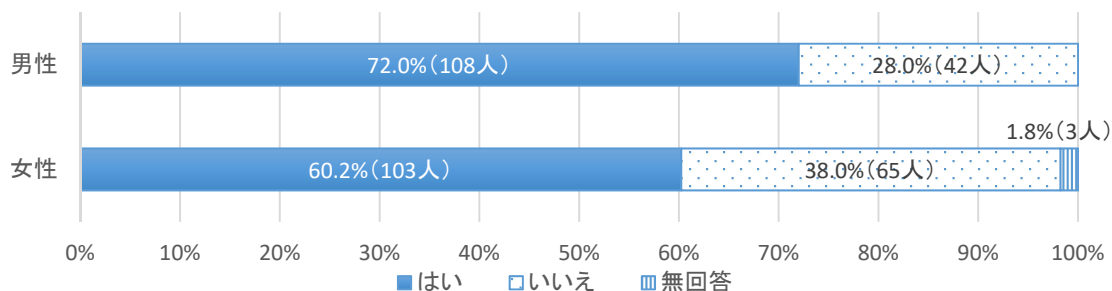
問6 問5で「知っている」を選択した方にお尋ねします。
 「メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）」の予防や改善のために取り組んでいることはありますか？（1つ選択）
 （回答者：321人）



年代別



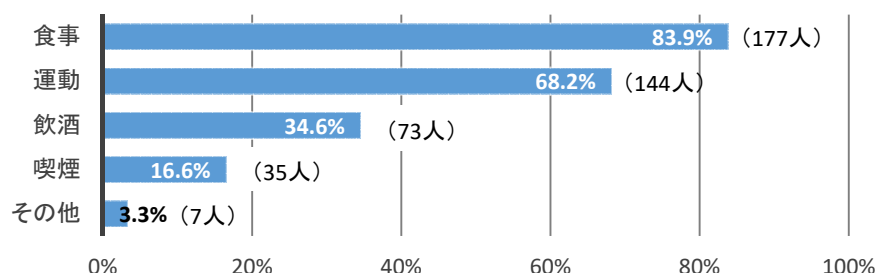
性別



『メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）』を「知っている」と回答した方で、予防や改善のために「取り組んでいる」と回答した方は65.7%であった。
 年代別では、「取り組んでいる」と回答した方は、80代の88.9%で最も高く、60代～80代では80%以上、30代～50代では60～70%程度であった。
 性別では、「取り組んでいる」方は、男性が女性より11.8ポイント高い。
 前回調査では「取り組んでいる」の回答が62.5%で、今回3.2ポイント増加した。
 『メタボリックシンドローム』の高い認知度に対し、予防や改善に「取り組んでいる」方の割合が、7割程度であることから、食生活や運動等の適正な取組の更なる周知・啓発が必要である。

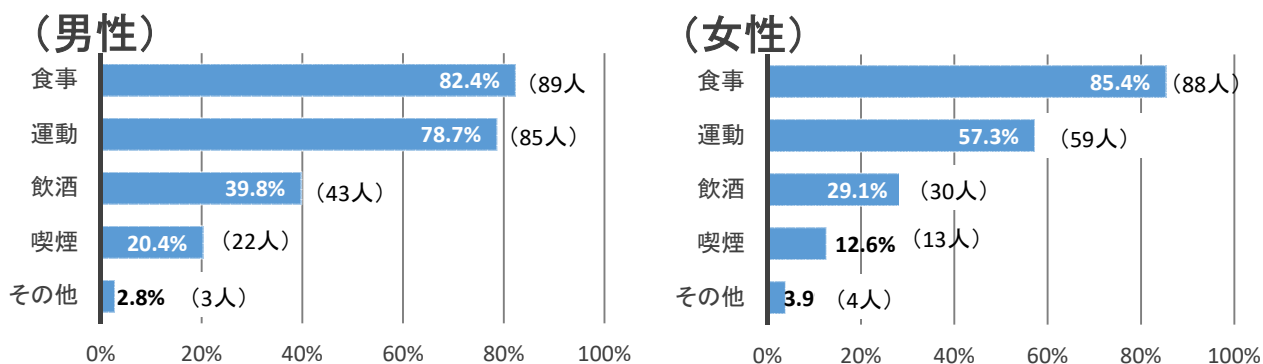
※回答の比率は、その設問の回答者数を基数として算出しました。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがあります。

問7 問6で「はい」を選択した方にお尋ねします。 (回答者：211人)
取り組みの具体的な内容は何ですか？(複数回答可)



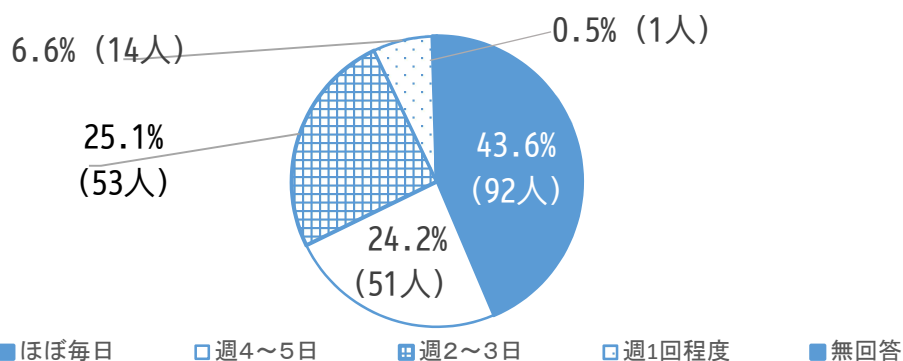
※「その他」を選択した方の意見

- ・体組織計で毎日測って数字で把握する
- ・ストレスを溜めない
- ・睡眠をとる
- ・日常生活での動作を多く心がけている



『メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)』の予防や改善のために「取り組んでいる」方の具体的な取組内容は、食事の83.9%が最も高く、次いで運動の68.2%であった。性別では、男性・女性共に「食事」への関心が高く、男性は82.4%、女性は85.4%となった。

問8 問6で「はい」を選択した方にお尋ねします。 (回答者：211人)
どのくらいの頻度で取り組んでいますか？(1つ選択)

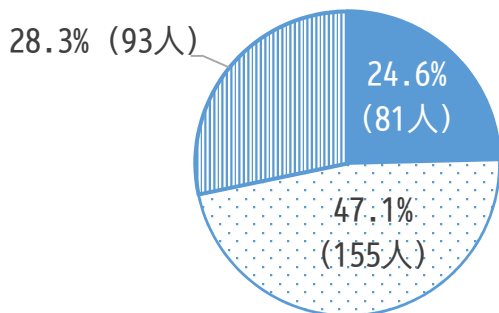


『メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)』の予防や改善のために「取り組んでいる」方の取組頻度は、全体では「ほぼ毎日」の43.6%が最も高く、次いで「週4~5日」と回答した方が24.2%であった。前回調査では「ほぼ毎日」の回答が42.2%で、今回1.4ポイント増加したが、「週4~5日」の回答は28.4%で、今回4.2ポイント減少した。

第2章 食習慣について

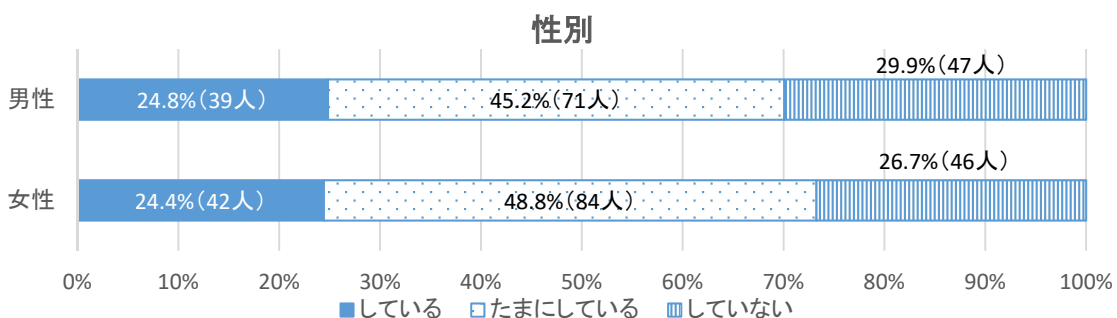
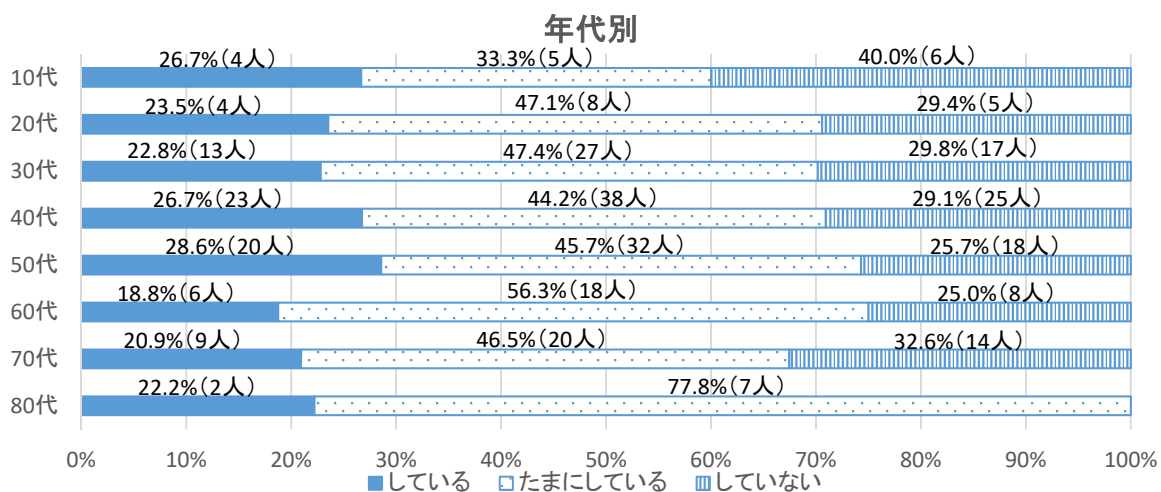
問9 外食や食品購入時に栄養成分表示（※）を参考にしていますか？（1つ選択）

（回答者：329人）



※食品に含まれる熱量（エネルギー）や栄養成分（たんぱく質、脂質、炭水化物など）の量を表示したものを。

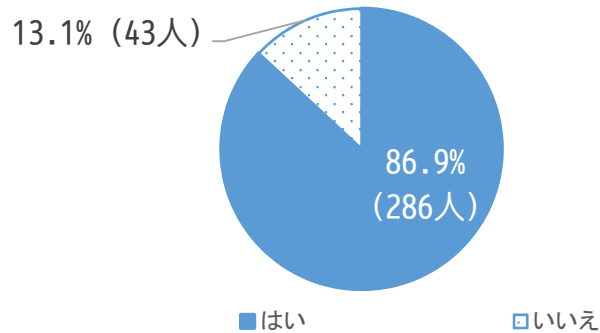
■参考にする □たまに参考にする ▨参考にしていない



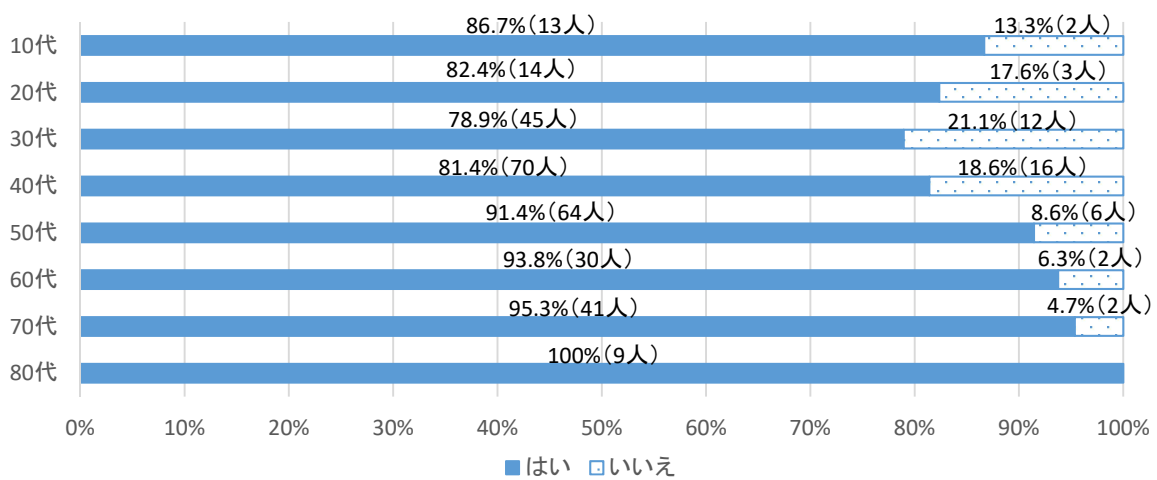
栄養成分表示について、「参考にしている」と回答した方が全体の24.6%、「たまに参考にする」と回答した方が47.1%で、合すると71.7%であった。
 年代別では、「参考にしている」「たまに参考にする」と回答した方は、80代で100%と最も高かった。また、「参考に参考にしていない」と回答した方は、10代で40.0%で最も高かった。
 性別では、「参考に参考にしていない」「たまに参考にする」と回答した方は、女性が男性より3.2ポイント高い。
 前回調査では「参考に参考にしていない」「たまに参考にする」の回答が73.4%で、今回1.7ポイント減少した。

問 10 健康維持のための食生活を心がけていますか？（1つ選択）

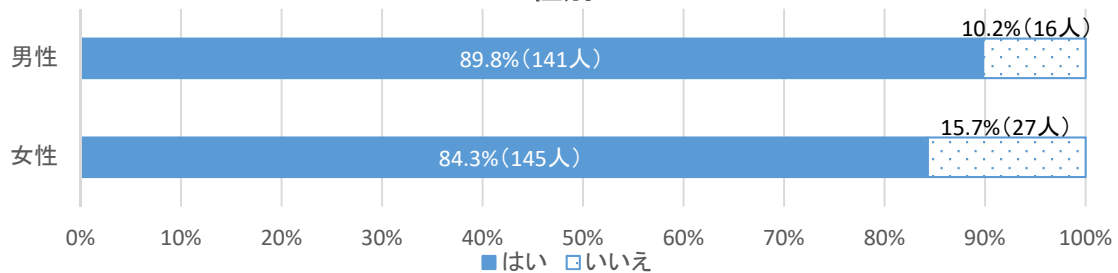
（回答者：329人）



年代別



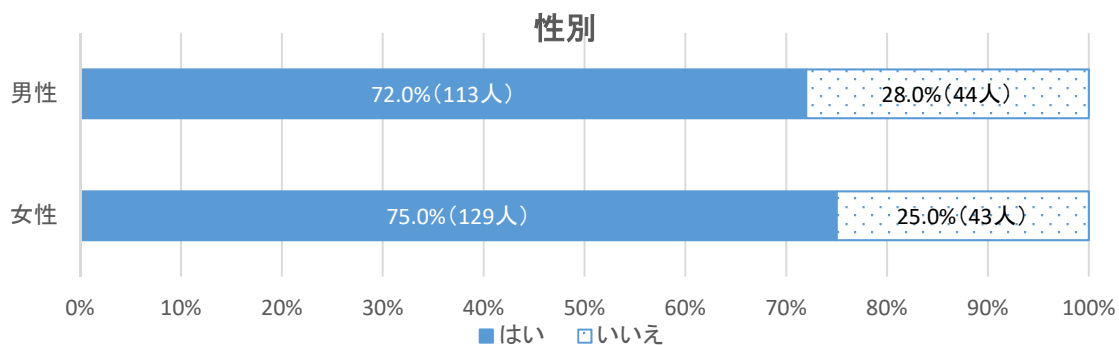
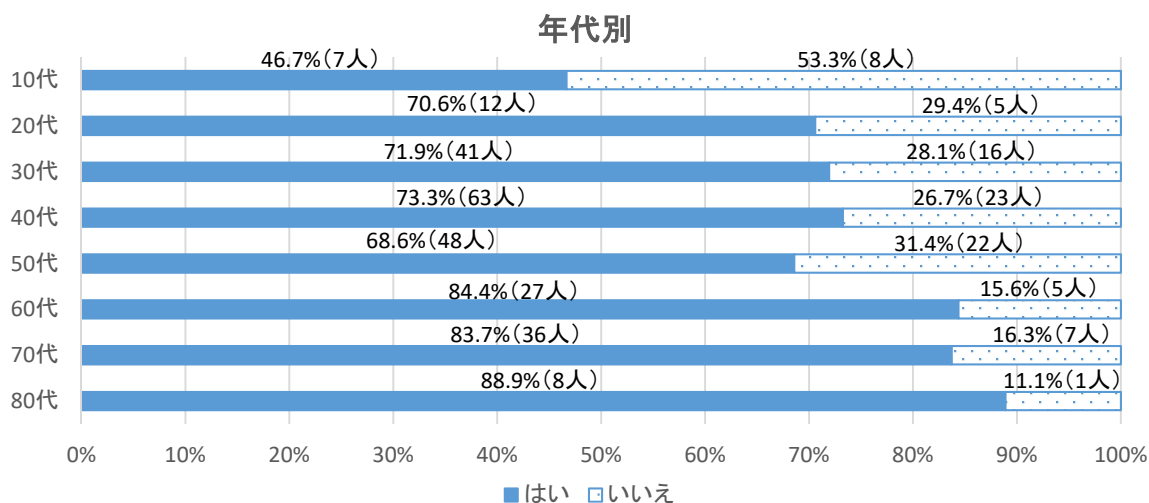
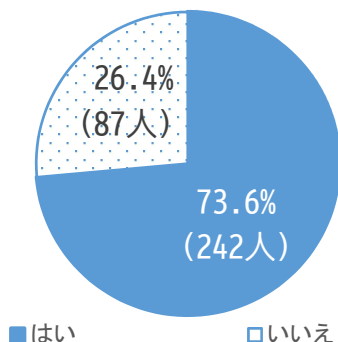
性別



健康維持のための食生活を「心がけている」方は、全体の86.9%であった。
 年代別では、80代が100%と最も高い。また、30代の78.9%が最も低く、40代以上では、
 年齢が上がるにつれ食生活を心がけている方の割合が多くなっている。
 性別では、男性が女性より5.5ポイント高い。
 前回調査では食生活を「心がけている」の回答が82.8%で、今回4.1ポイント増加した。

問 11 食事の時に食べ方（よく噛む、食べる順番など）を意識していますか？
（1つ選択）

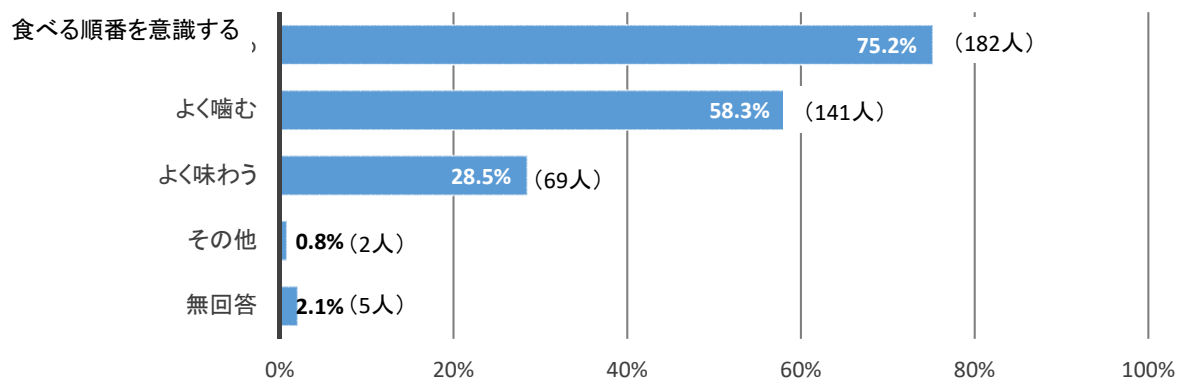
（回答者：329人）



食事の時の食べ方について、全体の73.6%が食べ方を「意識している」と回答した。年代別では、80代の88.9%が最も高い。20代～50代は70%前後であるのに対し、10代では50%以下と低い。性別では、食べ方を「意識している」と回答した方は、女性が男性よりも3.0ポイント高い。前回調査では食べ方を「意識している」の回答が68.3%で、今回5.3ポイント増加した。

問 12 問11で「はい」を選択した方にお尋ねします。
どのようなことを意識していますか？（複数回答可）

（回答者：242人）



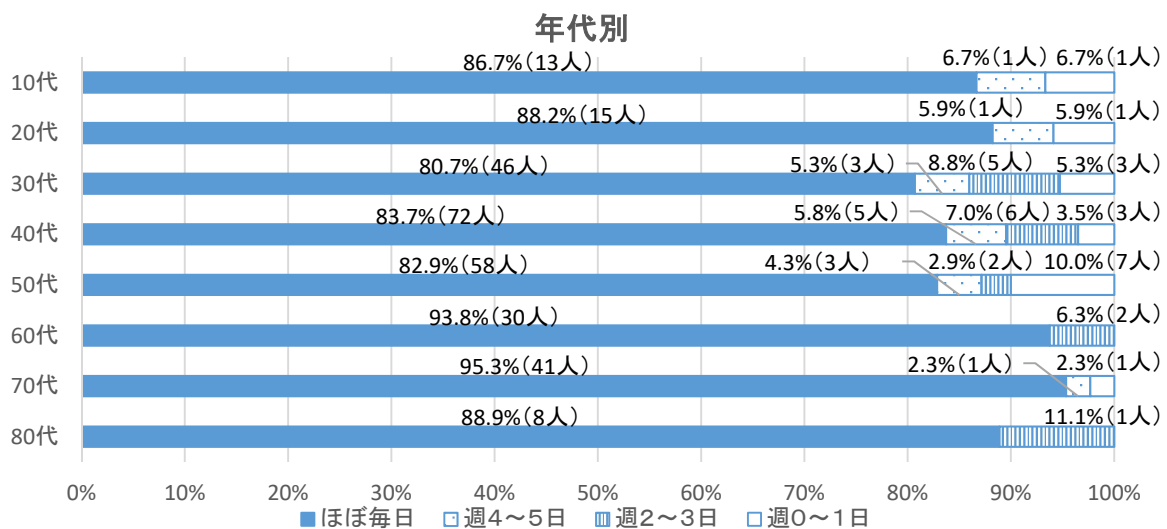
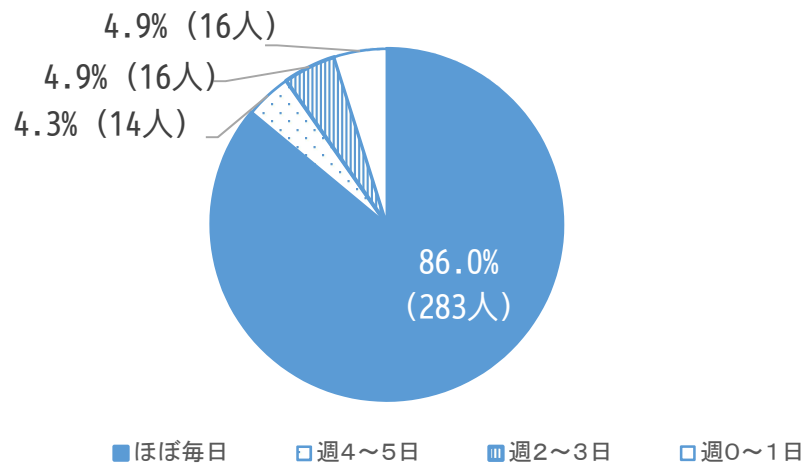
※「その他」を選択した方の意見

- ・テレビをなるべく見ないようにしている。
- ・食事の時間、特に夕飯が遅くならないようにしている。

問11で「はい」を選択した方が意識している内容は、「食べる順番を意識する」の75.2%が最も高く、次いで「よく噛む」の58.3%であった。

問 13 朝食を毎日とっていますか？（1つ選択）

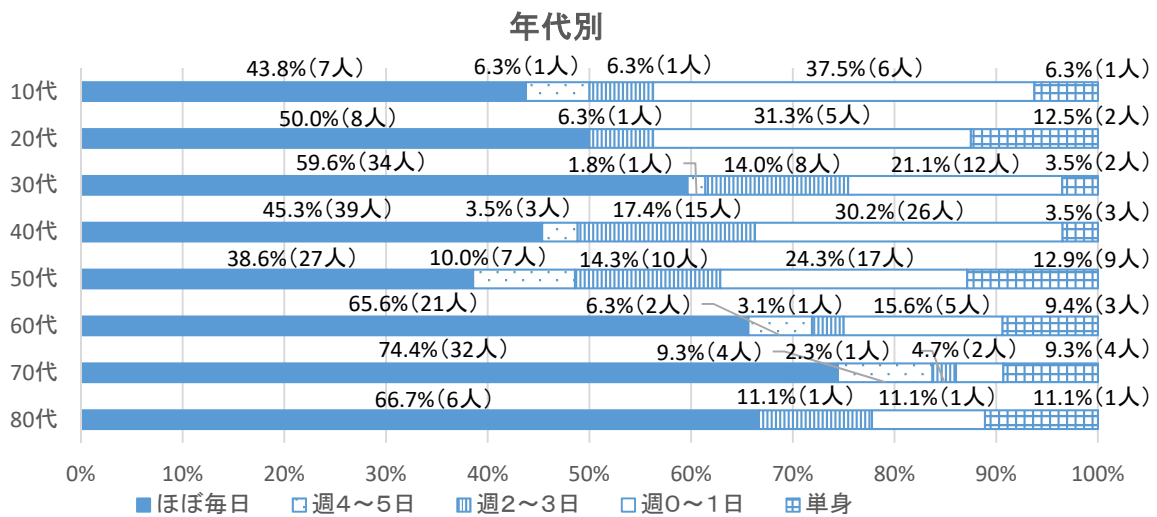
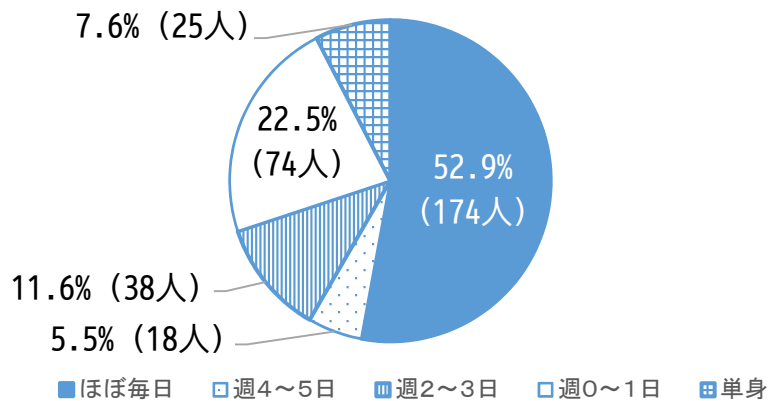
（回答者：329人）



朝食を食べる頻度は、全体の86.0%が「ほぼ毎日」と回答した。
 年代別では、「ほぼ毎日」食べる方は全ての年代で80%以上となり、30代の80.7%が最も低い。また、「週0～1日」と回答した方は、50代の10.0%で最も高い。
 前回調査では「ほぼ毎日」の回答が86.8%で、今回0.8ポイント減少した。

問 14 朝食を家族と一緒に食べる頻度はどれくらいですか？（1つ選択）

（回答者：329人）



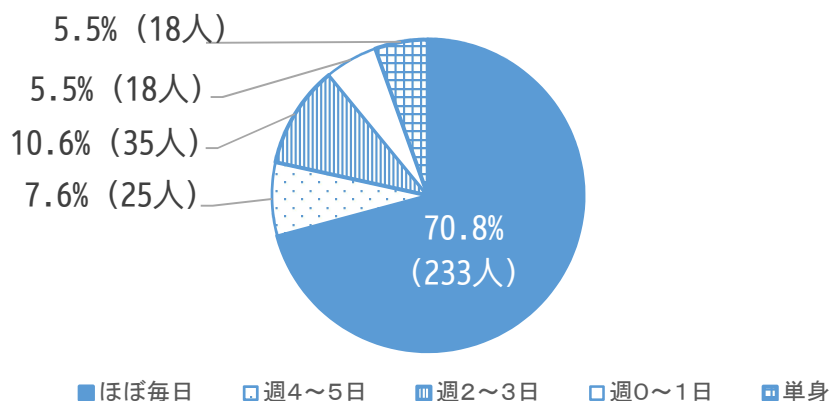
朝食を家族と一緒に食べる方は、「ほぼ毎日」で全体の52.9%、「週4~5日」で5.5%と回答し、合せて58.4%となった。

年代別では、「ほぼ毎日」「週4~5日」を合せると、70代の83.7%が最も高く、次いで60代の71.9%であった。また、「週0~1日」と回答した方は、10代の37.5%が最も高く、「単身」は50代の12.9%が最も高い。

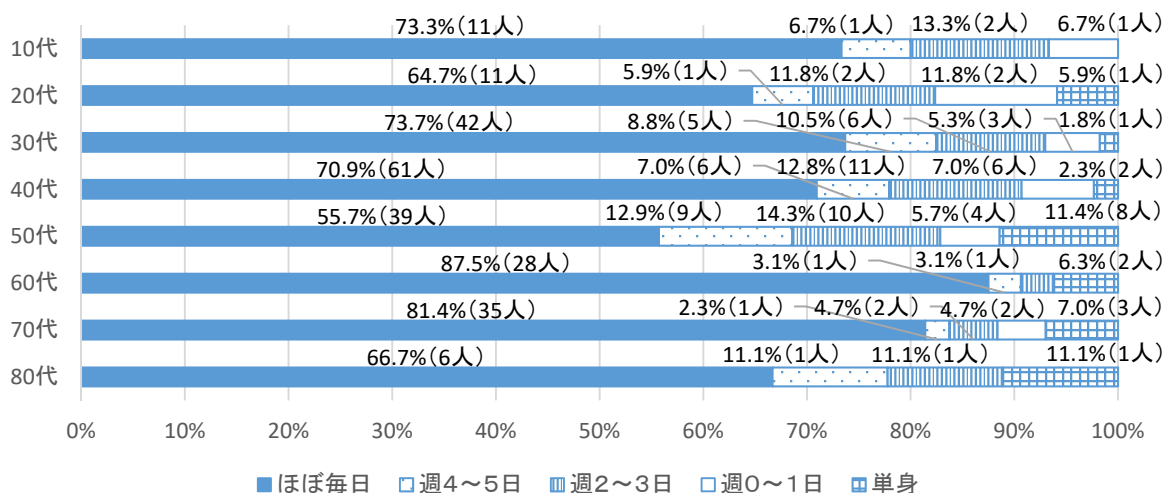
前回調査では「週4日以上」朝食を家族と一緒に食べると回答した方が64.3%で、今回5.9ポイント減少した。

問 15 夕食を家族と一緒に食べる頻度はどれくらいですか？（1つ選択）

（回答者：329人）



年代別

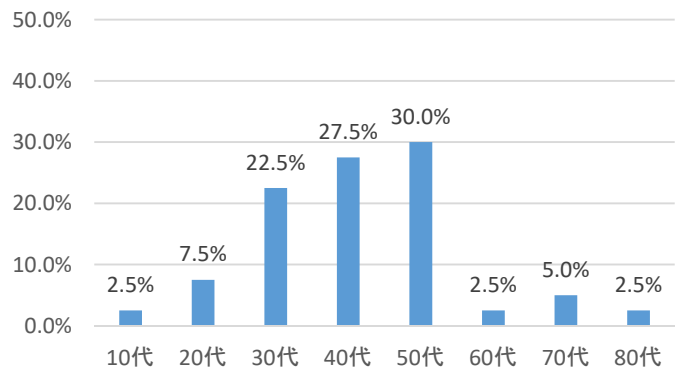


夕食を家族と一緒に食べる方は、「ほぼ毎日」で全体の70.8%、「週4~5日」で7.6%と回答し、合わせて78.4%となった。
 年代別では、「ほぼ毎日」「週4~5日」と回答した方は、60代の90.6%で最も高く、次いで70代の83.7%である。「週0~1日」と回答した方は、20代の11.8%で最も高く、次いで40代の7.0%であった。
 前回調査では「週4日以上」夕食を家族と一緒に食べると回答した方は77.6%で、今回0.8ポイント増加した。

《問14・問15のまとめ》

問14	問15	回答数	割合
ほぼ毎日 週4～5日	ほぼ毎日 週4～5日	178	55.6%
ほぼ毎日 週4～5日	週0～1日 週2～3日	13	4.1%
週0～1日 週2～3日	ほぼ毎日 週4～5日	72	22.5%
週0～1日 週2～3日	週0～1日 週2～3日	40	12.5%
単身	単身	17	5.3%
合計		320	100%

【年代別】朝食・夕食ともに家族と一緒に食べることが3日以下の方の割合



問14と問15の回答を併せてみると、全体の82.2%が朝食または夕食を週4日以上家族と一緒に食べると回答した。

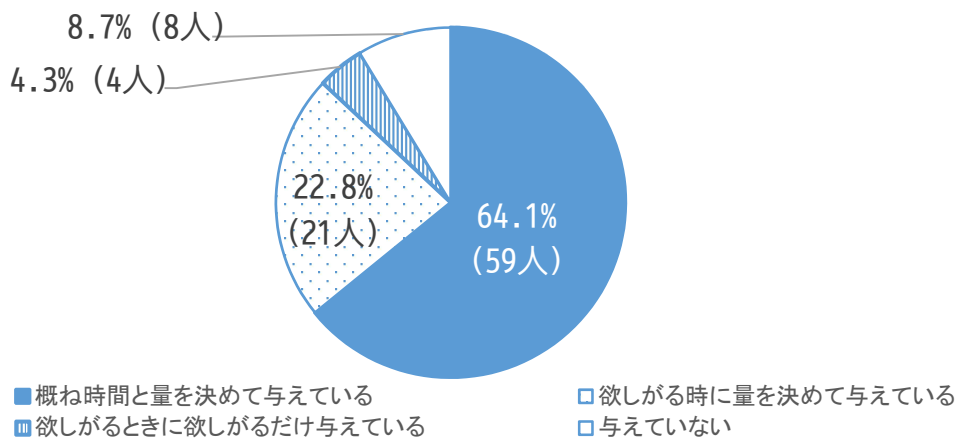
朝食・夕食ともに3日以下の方は全体の12.5%であるが、年代別で見ると30代～50代の働き盛り世代が高い。

朝食または夕食を週4日以上と回答した方は、前回調査では88.8%であったが、今回6.6ポイント減少した。

問 16 就学前のお子さんと同居している方にお尋ねします。

子どもに時間と量を決めておやつを与えていますか？（1つ選択）

（回答者：92人）



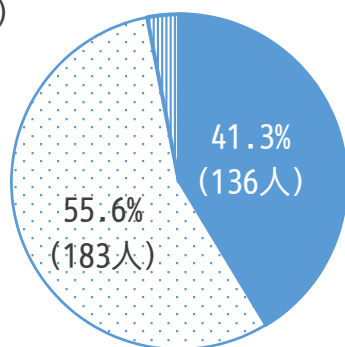
就学前のお子さんへのおやつとの与え方は、全体の64.1%が「概ね時間と量を決めて与えている」と回答し、22.8%が「欲しがる時に量を決めている」と回答し、合せて86.9%となった。

前回調査では「概ね時間と量を決めて与えている」の回答が64.9%で、今回0.8ポイント減少した。

問 17 食事のマナー（あいさつ、食事の仕方・作法、食べ残しをしない）を実践していますか？（1つ選択）

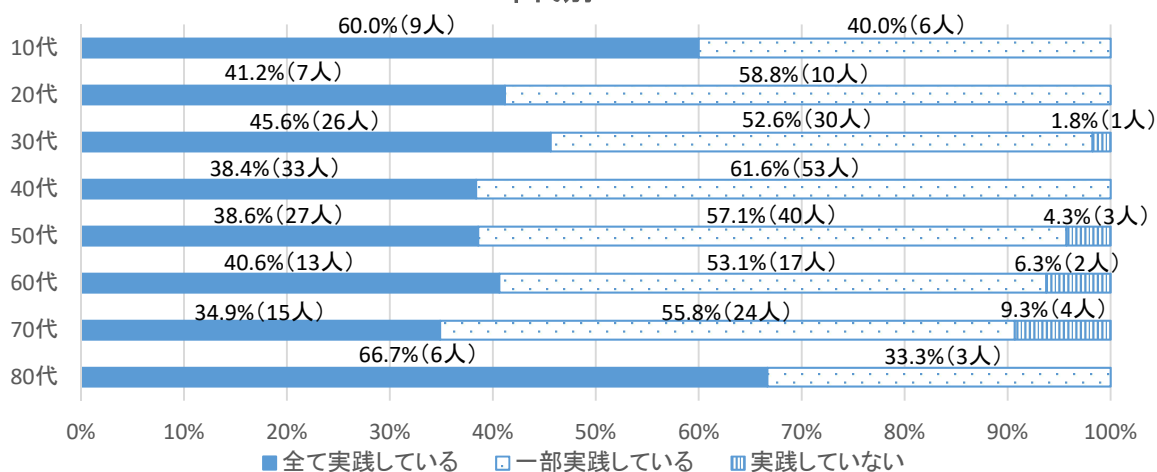
（回答者：329人）

3.0% (10人)

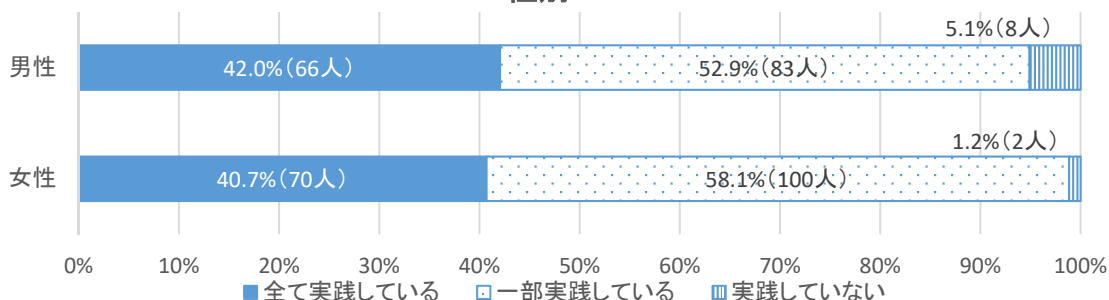


■ 全て実践している □ 一部実践している ▨ 実践していない

年代別



性別



食事のマナーについては、全体の41.3%が「全て実践している」と回答し、55.6%が「一部実践している」と回答し、合わせて96.9%となった。

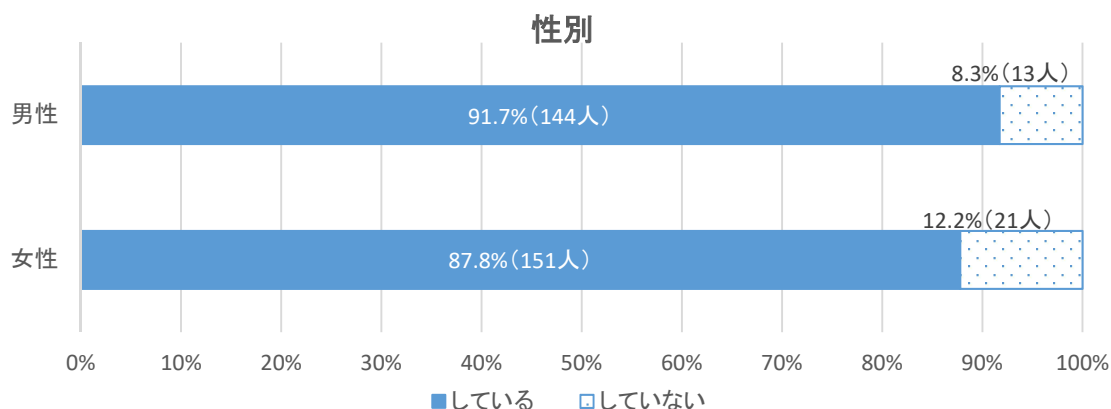
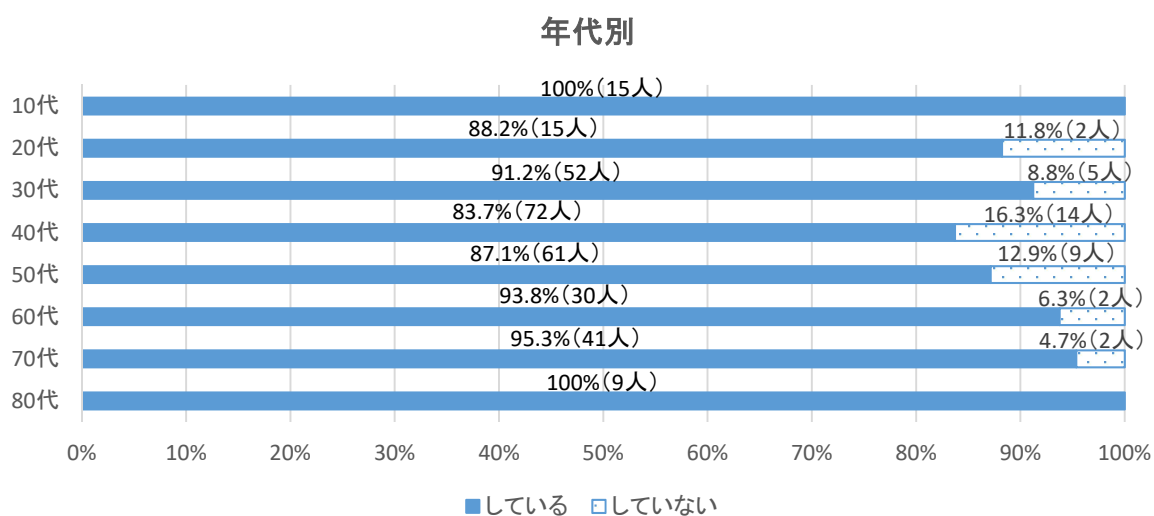
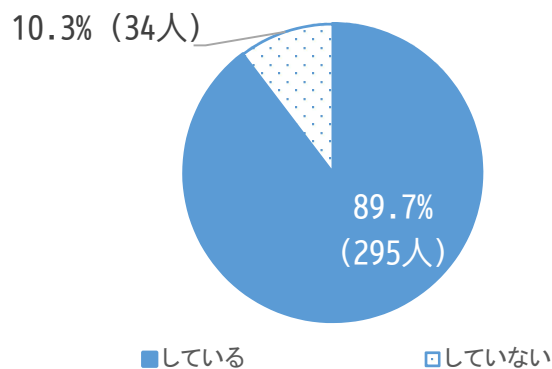
年代別では、「全て実践している」と回答した方は80代の66.7%が最も高い。また、「全て実践している」「一部実践している」と回答した方は、全ての年代で90%以上であった。

性別では、「全て実践している」では男性が女性より1.3ポイント高い。また、「全て実践している」「一部実践している」と回答した方は、女性が男性より3.9ポイント高い。

前回調査では「全部実行している」「一部実行している」の回答が95.5%で、今回1.4ポイント増加した。

問 18 買いすぎ、作りすぎ、食べ残しなどに気をつけて、食品の廃棄が少なくなるよう実践していますか？（1つ選択）

（回答者：329人）

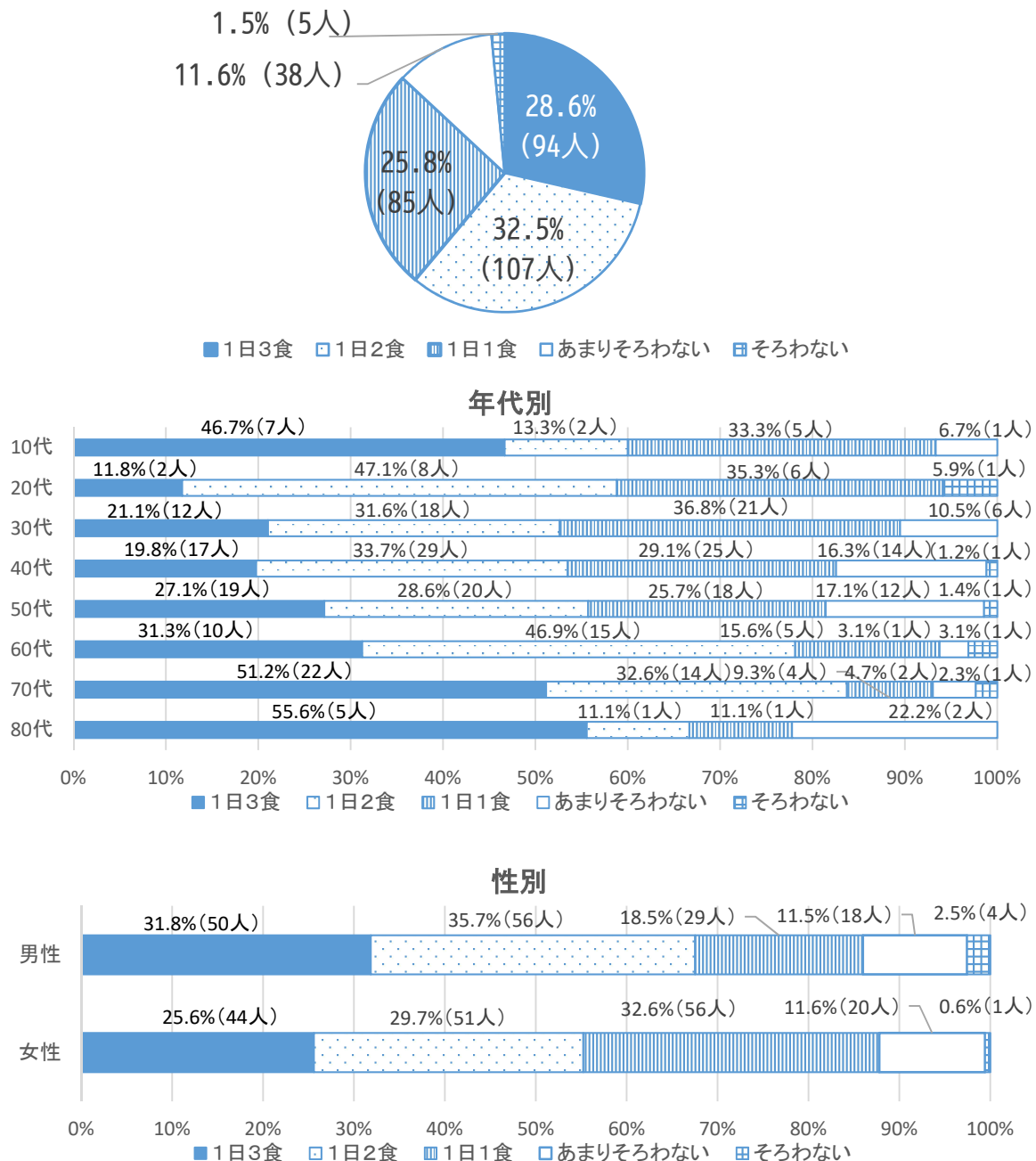


食品の廃棄を少なくする取組みについては、全体の89.7%の方が「実践している」と回答した。
 年代別では、「実践している」と回答した方は全ての年代で80%以上だった。
 性別では、男性が女性より3.9ポイント高い。
 前回調査では「実践している」の回答が87.0%で、今回2.7ポイント増加した。

第3章 食事内容について

問 19 バランスの良い食事となるよう《主食（ごはん、パン、めん）》・《主菜（肉・魚・卵・大豆製品のおかず）》・《副菜（野菜のおかず）》がそろそろ食事をして
いますか？（1つ選択）

（回答者：329人）

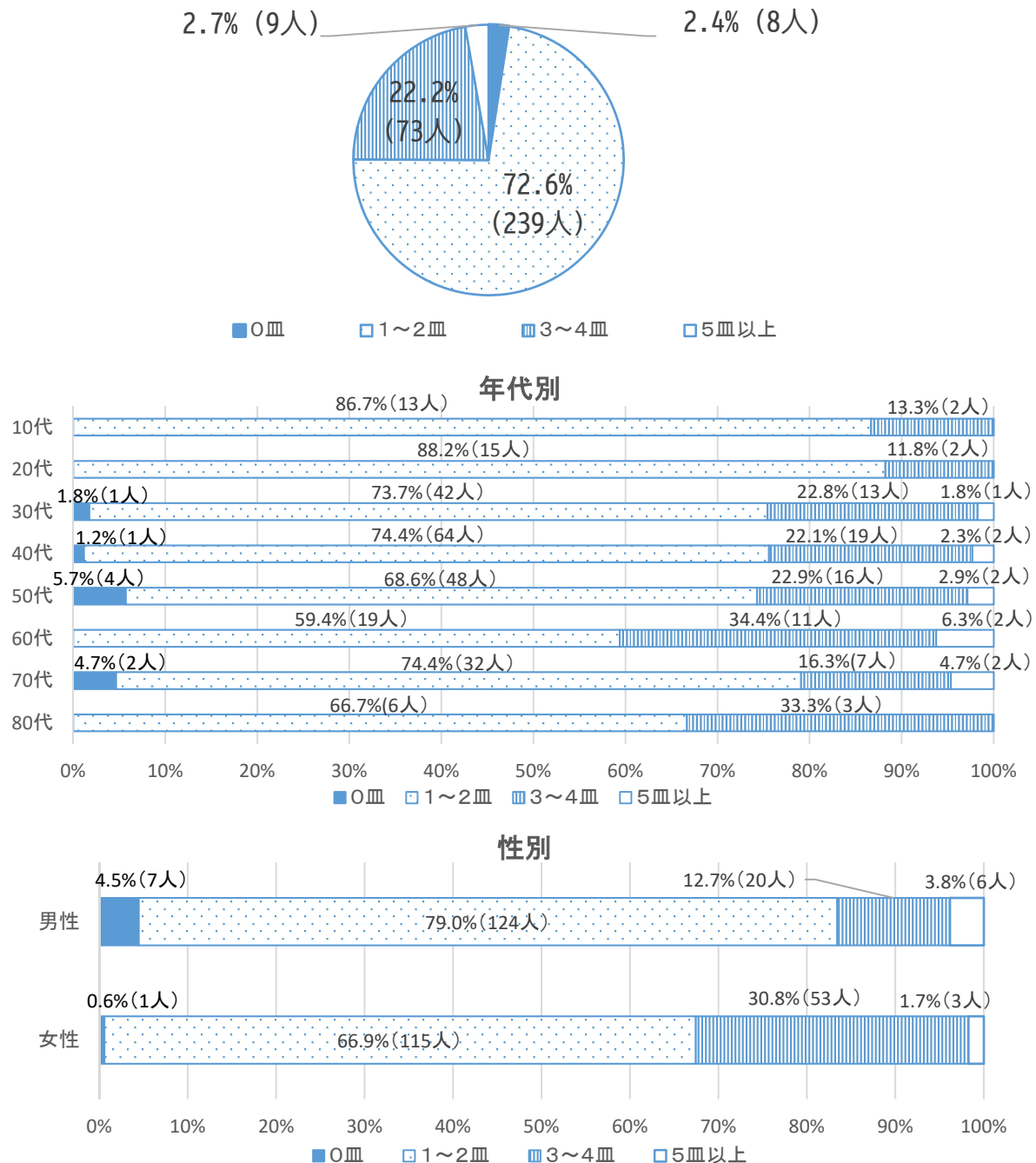


バランスのよい食事については、全体の28.6%が「1日3食」と回答し、32.5%が「1日2食」と回答し、合せて61.1%となった。
年代別では、「1日3食」と回答した方は、80代の55.6%で最も高く、20代の11.8%で最も低い。また、「1日3食」「1日2食」と回答した方は、70代の83.8%が最も高く、次いで60代の78.2%であった。
性別では、「1日3食」「1日2食」と回答した方は、男性で67.5%、女性で55.3%となり、男性が女性より12.2ポイント高い。
前回調査では「1日2食以上」の回答が61.4%で、今回0.3ポイント減少した。

問 20 野菜の摂取についてお尋ねします。1日に何皿分（1皿の目安は野菜約70g）の野菜を食べていますか？（1つ選択）

例：ほうれん草のおひたし（小鉢）→1皿分、野菜サラダ（1人前）→1皿分、野菜の煮物（中鉢）→2皿分と換算する。

（回答者：329人）



1日の野菜の摂取量については、全体で72.6%の「1~2皿」が最も高く、次いで22.2%の「3~4皿」となった。また、「0皿」と「5皿以上」は、共に2%台であった。

年代別では、「0皿」と回答した方では50代の5.7%が最も高く、次いで70代の4.7%であった。

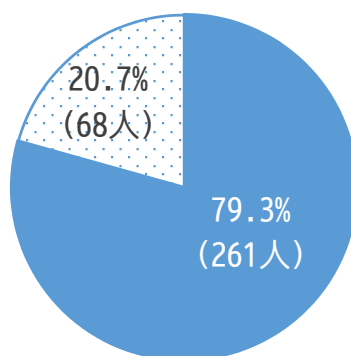
性別では、「1~2皿」と回答した方は男性が女性より12.1ポイント高く、「3~4皿」と回答した方は女性が男性より18.1ポイント高く、「5皿以上」と回答した方は男性が女性より2.1ポイント高い。

前回調査では1日に「5皿以上」の回答が3.3%で、今回0.6ポイント減少した。

1日に1皿以上食べていると回答した方は90%以上であったが、1日の目標量350gに相当する「5皿以上」を食べている方の割合は低いことから、更なる周知・啓発が必要である。

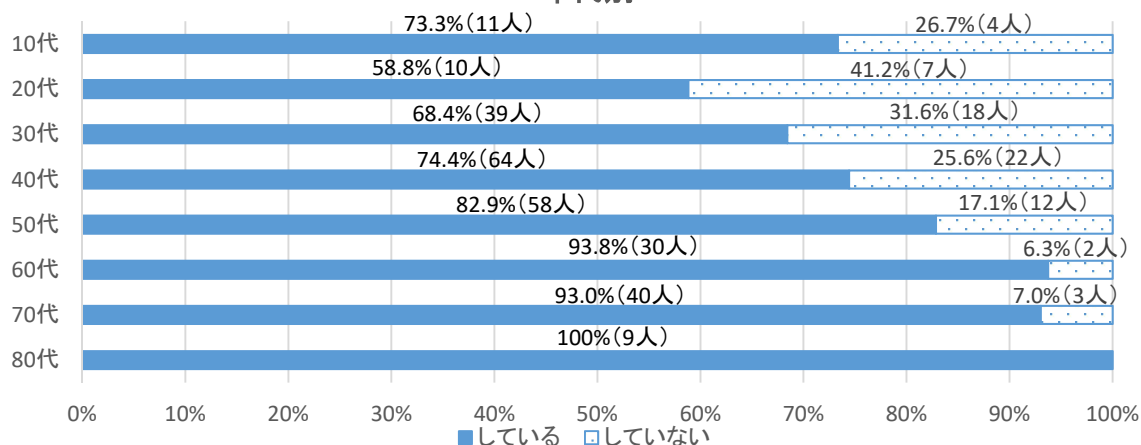
問 21 塩分を取り過ぎないように意識していますか？ (1つ選択)

(回答者：329人)

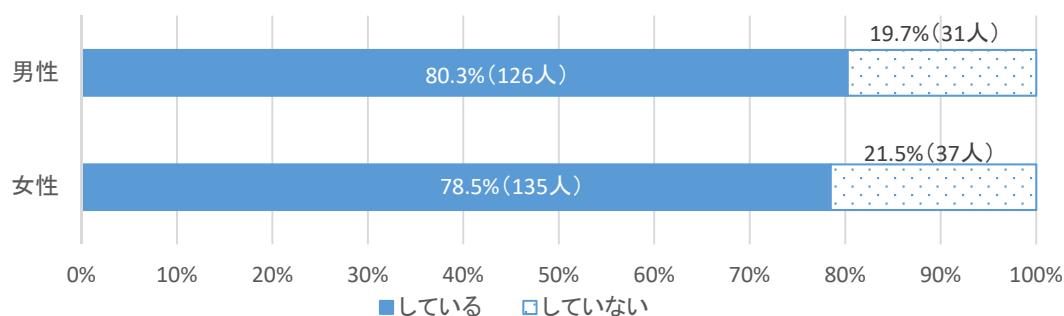


■ している □ していない

年代別



性別



塩分の摂取については、全体で79.3%が取り過ぎないように「意識している」と回答した。

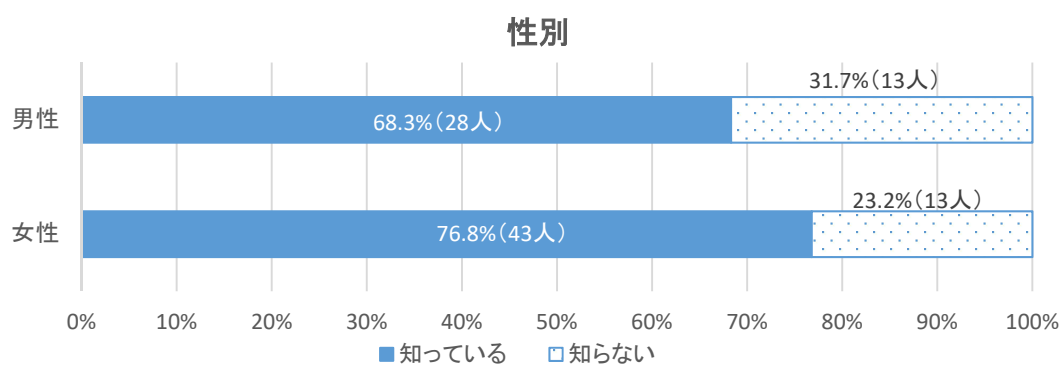
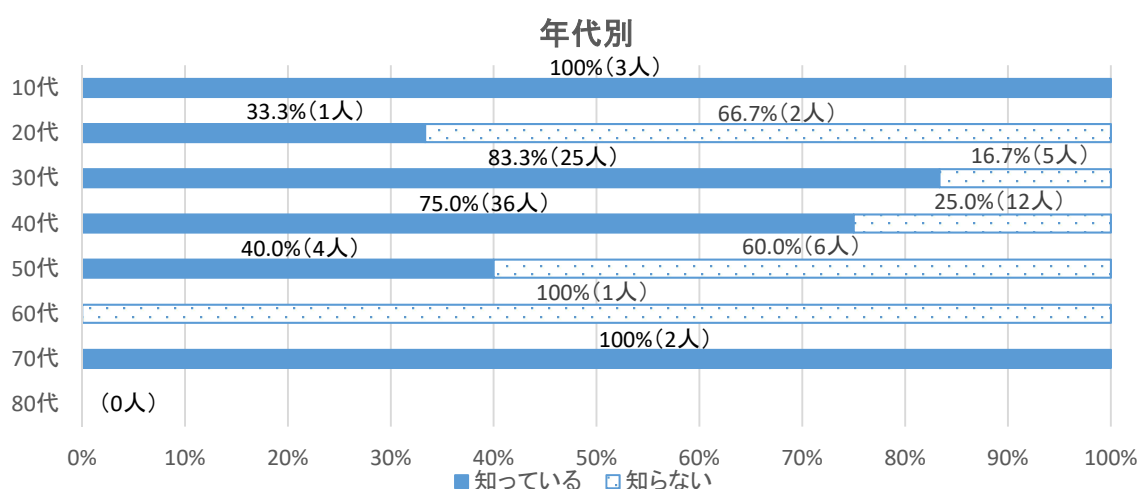
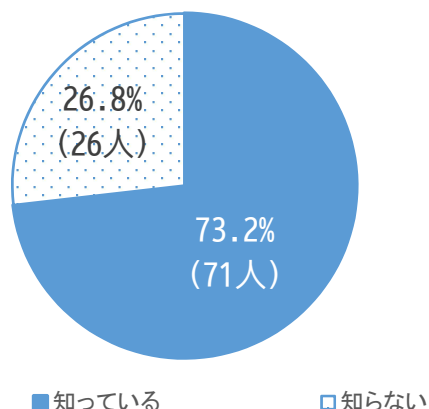
年代別では、「意識している」と回答した方は80代の100%が最も高く、次いで60代・70代では90%以上となっている。また、20代で58.8%、30代で68.4%となり、全体と比較すると若い世代で低く、年齢が上がるにつれ塩分を取りすぎないように「意識している」方の割合が高くなる傾向にある。

性別では、取り過ぎないように「意識している」と回答した方は、男性が女性より1.8ポイント高い。

前回調査では「意識している」の回答が73.7%で、今回5.6ポイント増加した。

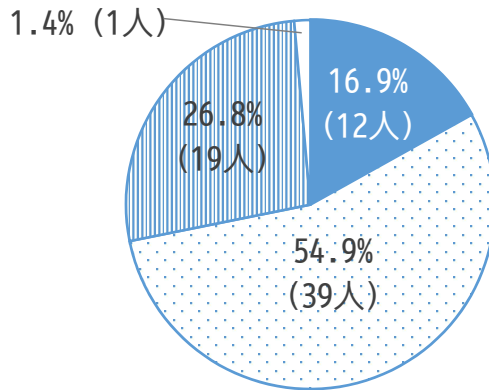
問 22 小中学生のお子さんと同居している方にお尋ねします。
学校給食の献立内容をご存じですか？（1つ選択）

（回答者：97人）



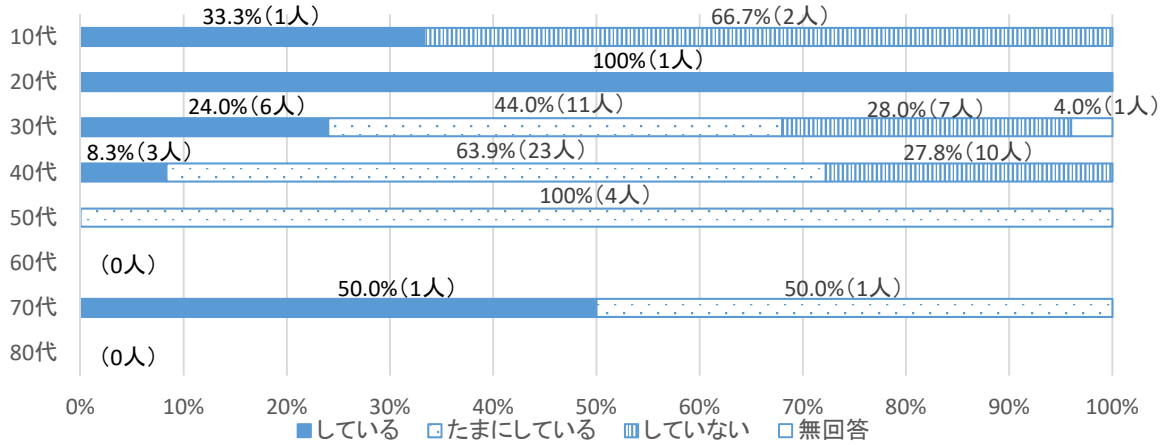
学校給食の内容の認知度については、73.2%が「知っている」と回答した。
年代別では、「知っている」と回答した方は10代・70代の100%が最も高く、60代の0%が最も低い。
また、20代～50代では30～80%程度と大きな開きがあった。
性別では、「知っている」と回答した方は、女性が男性より8.5ポイント高い。
なお、80代で小中学生のお子さんと同居している方は、いなかった。

問 23 問22で「知っている」を選択した方にお尋ねします。
 学校給食の献立を踏まえ、バランスの良い食事となるよう自宅での献立を
 考えますか？ (1つ選択) (回答者：71人)

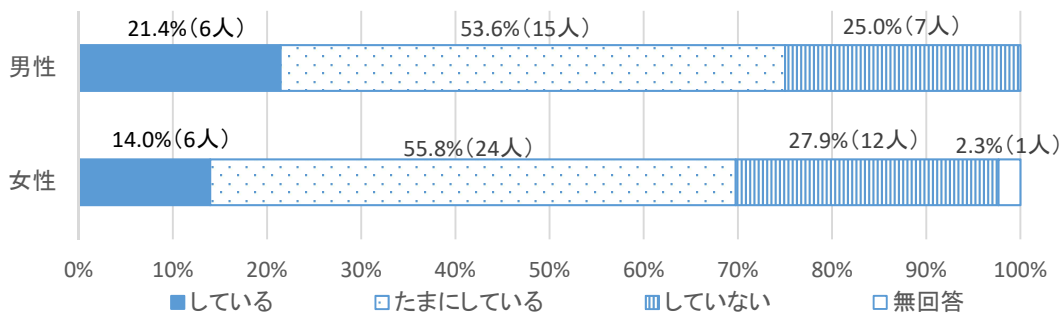


■ している □ たまにしている ■ していない □ 無回答

年代別



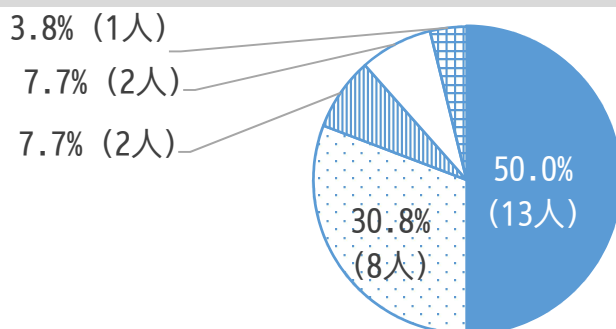
性別



問22で「知っている」と回答した方のうち、学校給食の献立を踏まえ、自宅での献立をバランスの良い食事となるように「している」と回答した方は16.9%、「している」「たまにしている」を合すると71.8%となった。
 年代別では、「している」「たまにしている」と回答した方は、20代・50代・70代の100%が最も高く、10代の33.3%が最も低かった。
 性別では、「している」「たまにしている」と回答した方は、男性が女性より5.2ポイント高い。

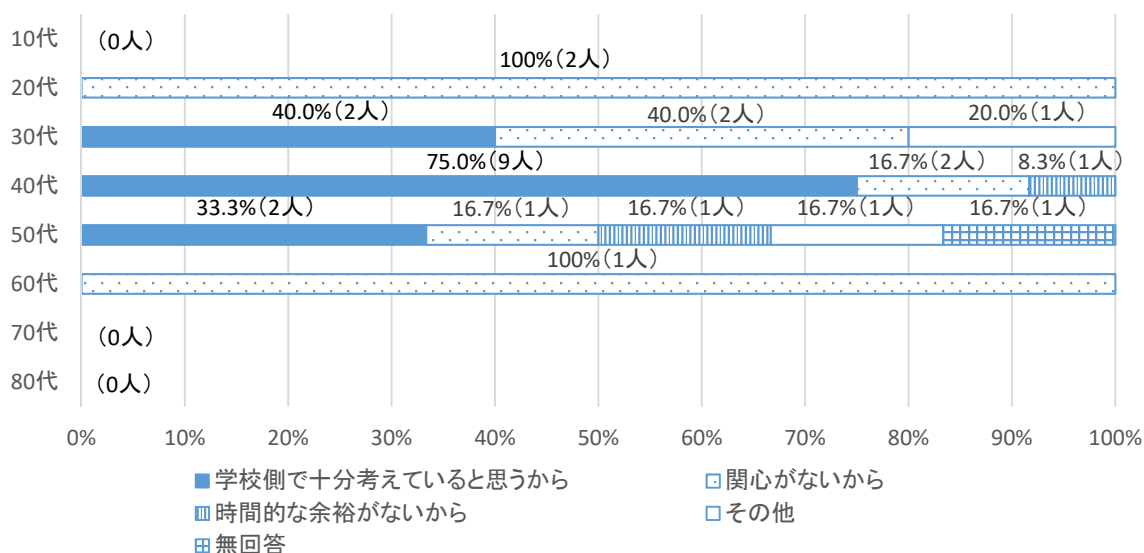
問 24 問22で「知らない」を選択した方に、その理由をお尋ねします。(1つ選択)

(回答者：26人)

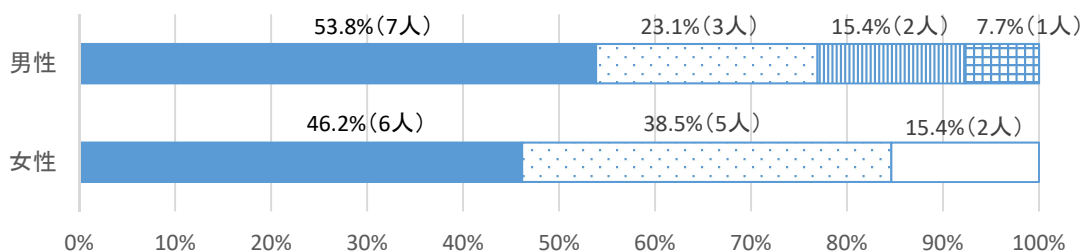


■ 学校側で十分考えていると思うから □ 関心がないから ■ 時間的な余裕がないから □ その他 ■ 無回答

年代別



性別



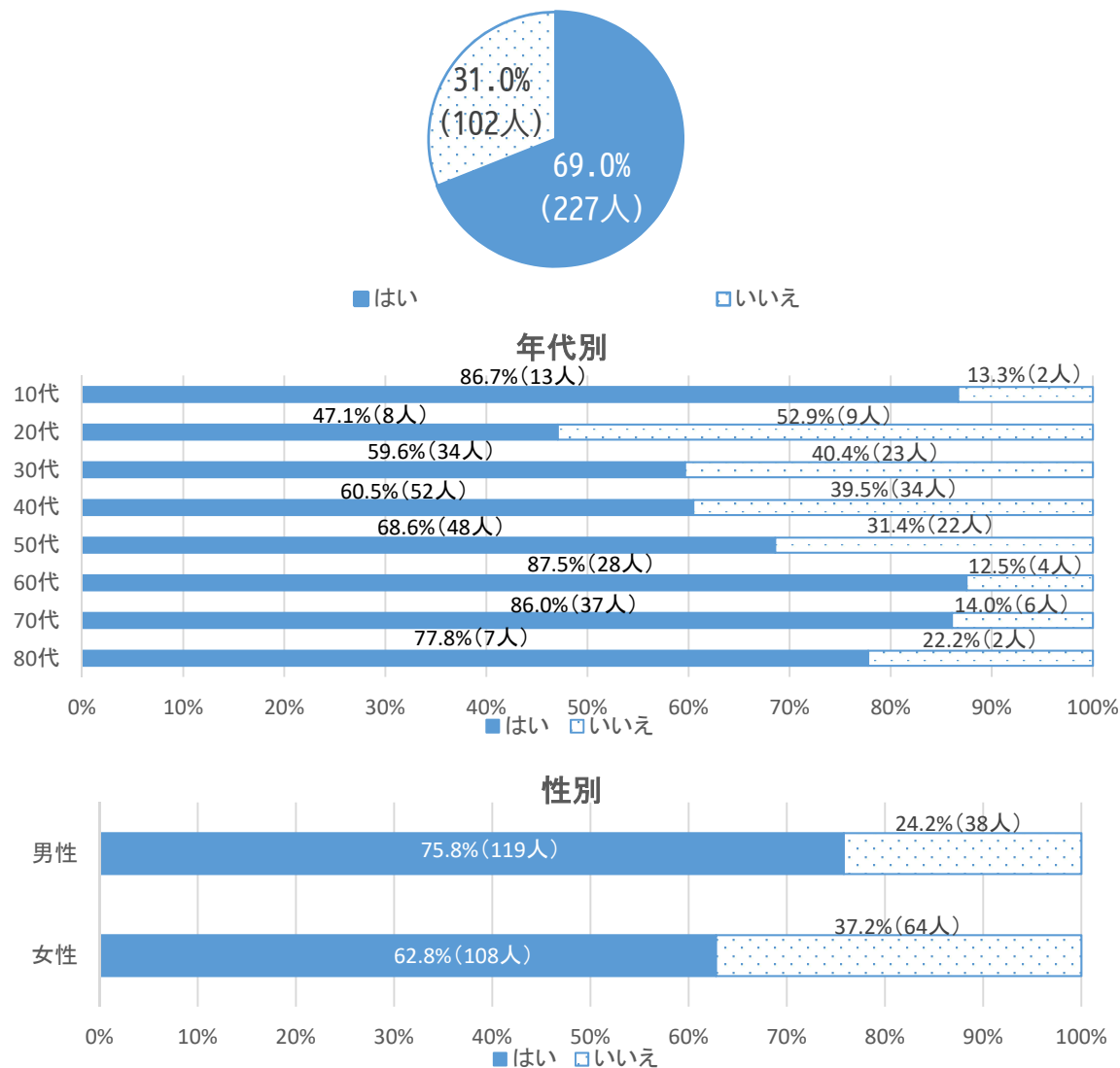
■ 学校側で十分考えていると思うから □ 関心がないから ■ 時間的な余裕がないから □ その他 ■ 無回答

問23で「知らない」と回答した方の理由は、「学校側で十分考えていると思うから」の50.0%が最も高く、次いで「関心がないから」の30.8%であった。
 年代別では、「学校側で十分考えていると思うから」と回答した方は40代の75.0%、「関心がないから」と回答した方は20代と60代の100%、「時間的な余裕がないから」と回答した方は50代の16.7%が最も高かった。
 性別では、男性・女性共に「学校側で十分考えていると思うから」と回答した方が最も多く、男性が女性より7.6ポイント高い。

第4章 生活習慣について

問 25 健康維持のため運動することを心がけていますか？（1つ選択）

（回答者：329人）

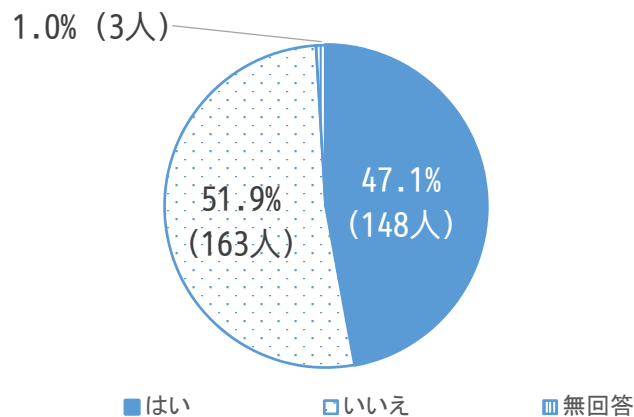


健康維持のための運動については、全体の69.0%が「心がけている」と回答した。
年代別では、運動を「心がけている」方は、60代の87.5%が最も高く、20代の47.1%が最も低い。全体の傾向をみると、最も低い20代から年齢が上がるにつれて割合が高くなる傾向にある。

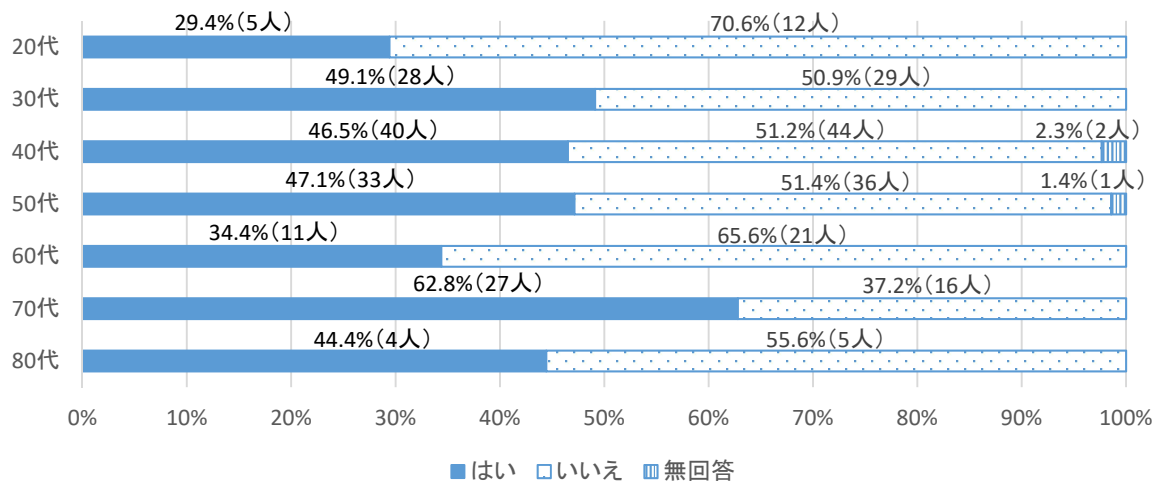
性別では、運動を「心がけている」方は、女性より男性が13.0ポイント高い。
前回調査では運動を「心がけている」の回答が61.9%で、今回7.1ポイント増加した。

問 26 20歳以上の方にお尋ねします。定期的に飲酒をしていますか？（1つ選択）

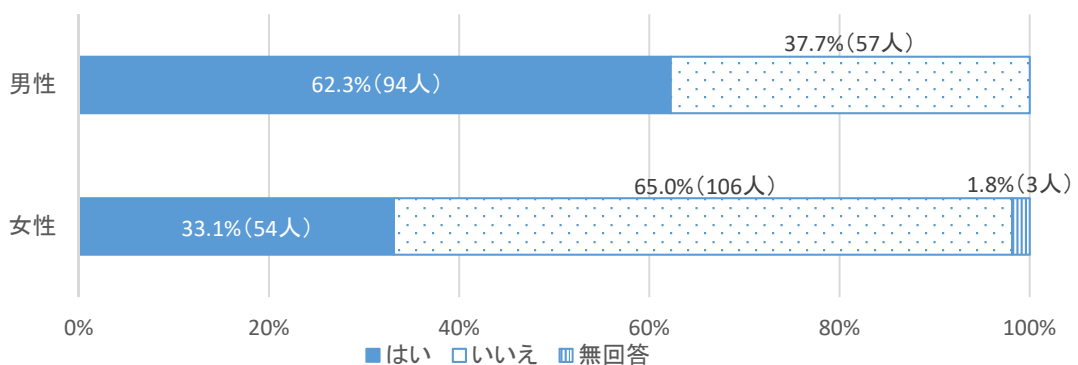
（回答者：314人）



年代別



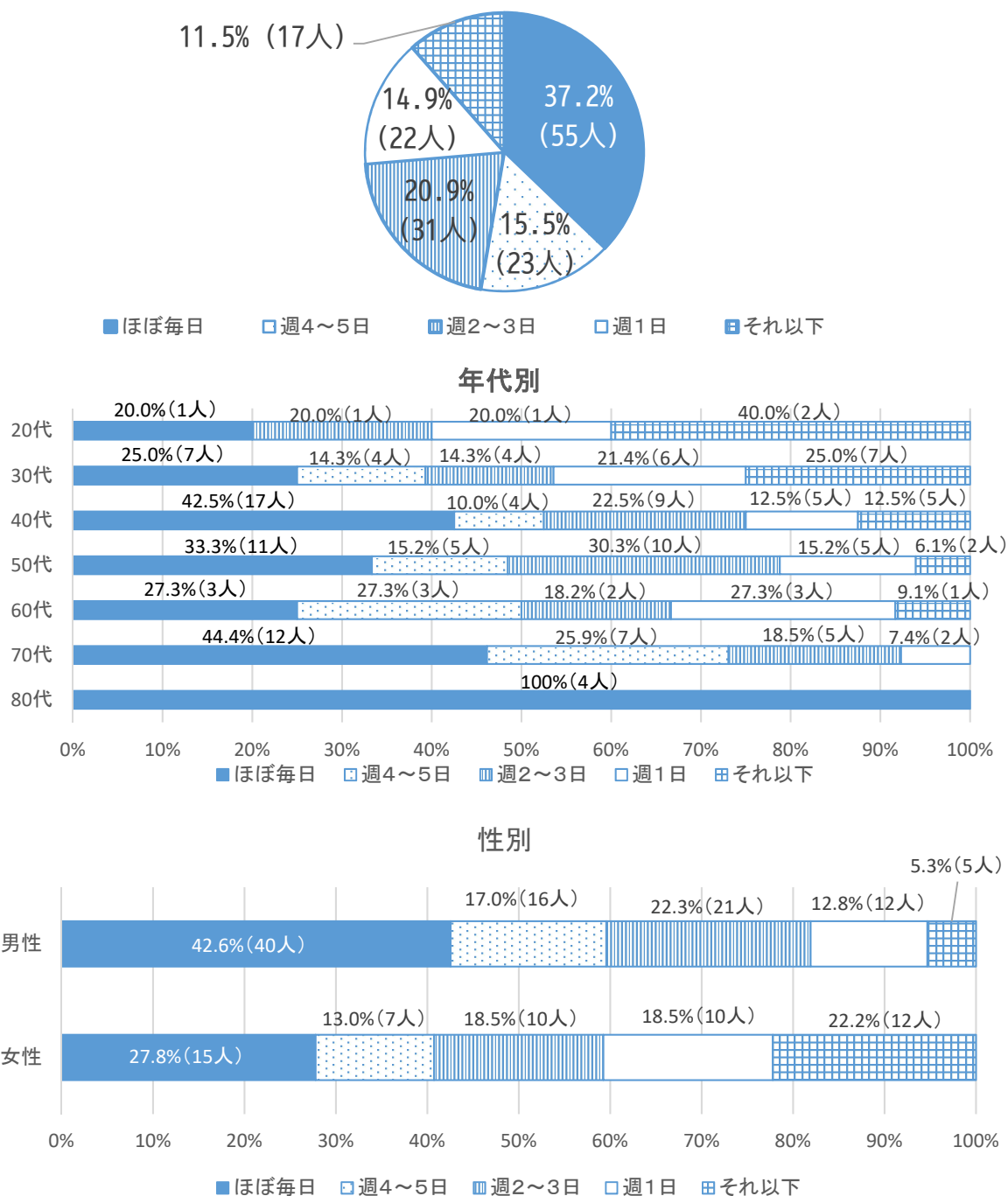
性別



定期的な飲酒をしているかについては、全体の47.1%が「はい」と回答した。
 年代別では、「はい」と回答した方では70代の62.8%が最も高く、20代が29.4%と最も低い。
 性別では、「はい」と回答した方は男性が女性より29.2ポイント高く、女性よりも男性の方が飲酒の習慣を持つ方が多い。
 前回調査では「はい」の回答が46.9%で、今回0.2ポイント増加した。

問 27 問26で「はい」を選択した方にお尋ねします。
週にどのくらいの頻度で飲酒をしますか？（1つ選択）

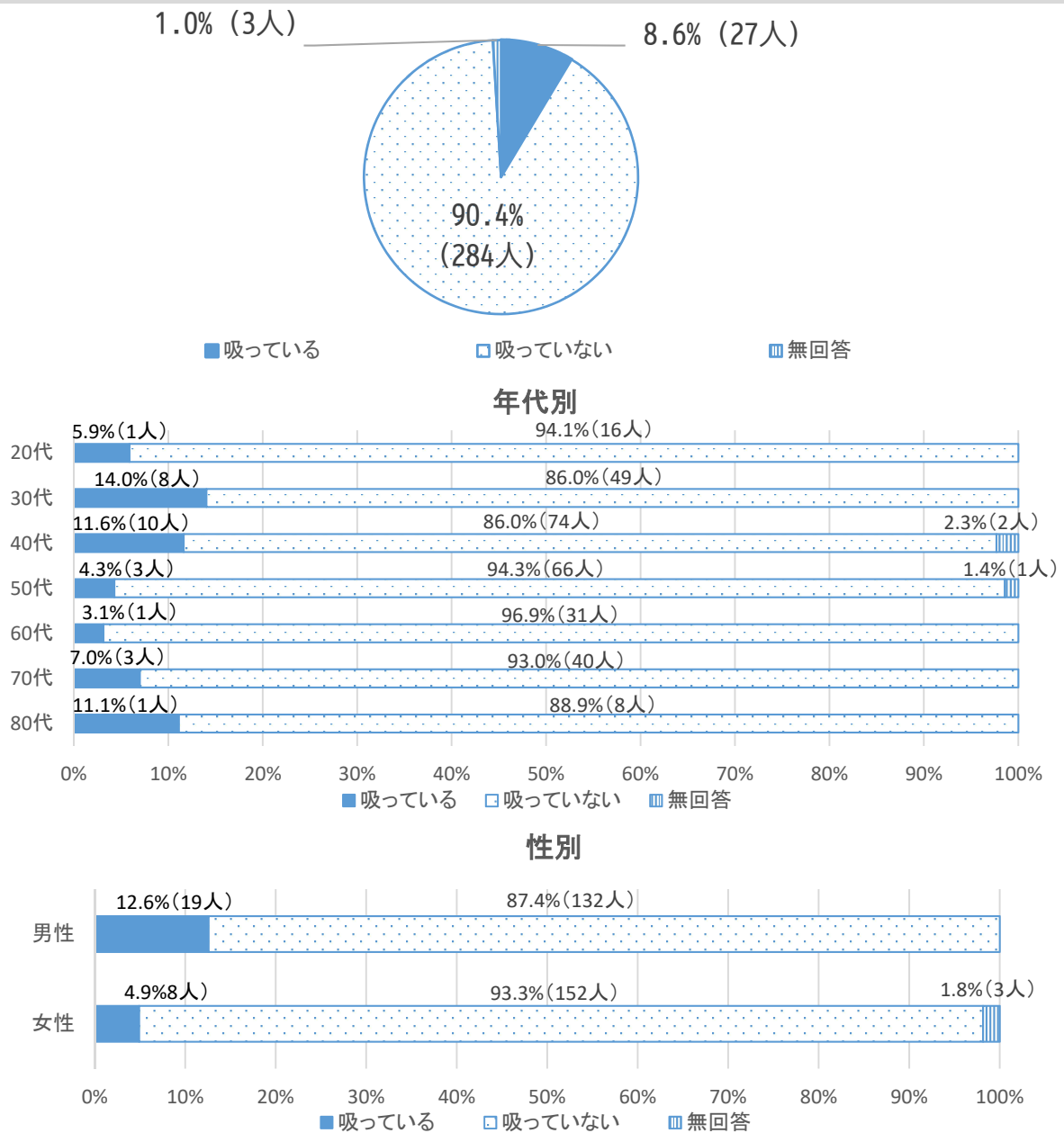
（回答者：148人）



問26で「はい」を選択した方の飲酒の頻度は、「ほぼ毎日」と回答した方が全体の37.2%で最も高く、次いで「週2～3日」の20.9%であった。
年代別では、「ほぼ毎日」と回答した方は80代の100%で最も高く、次いで70代の44.4%であった。また、「週4～5日」と回答した方は60代の27.3%で最も高く、次いで70代の25.9%であった。
性別では、男性では「ほぼ毎日」と回答した方が42.6%で最も高く、次いで「週2～3日」の22.3%であった。女性では、「ほぼ毎日」と回答した方が27.8%で最も高く、次いで「それ以下」の22.2%であった。
飲酒習慣のある方においては、男性は女性よりも頻度が高い傾向が見られた。

問 28 20歳以上の方にお尋ねします。
たばこを吸っていますか？ (1つ選択)

(回答者：314人)



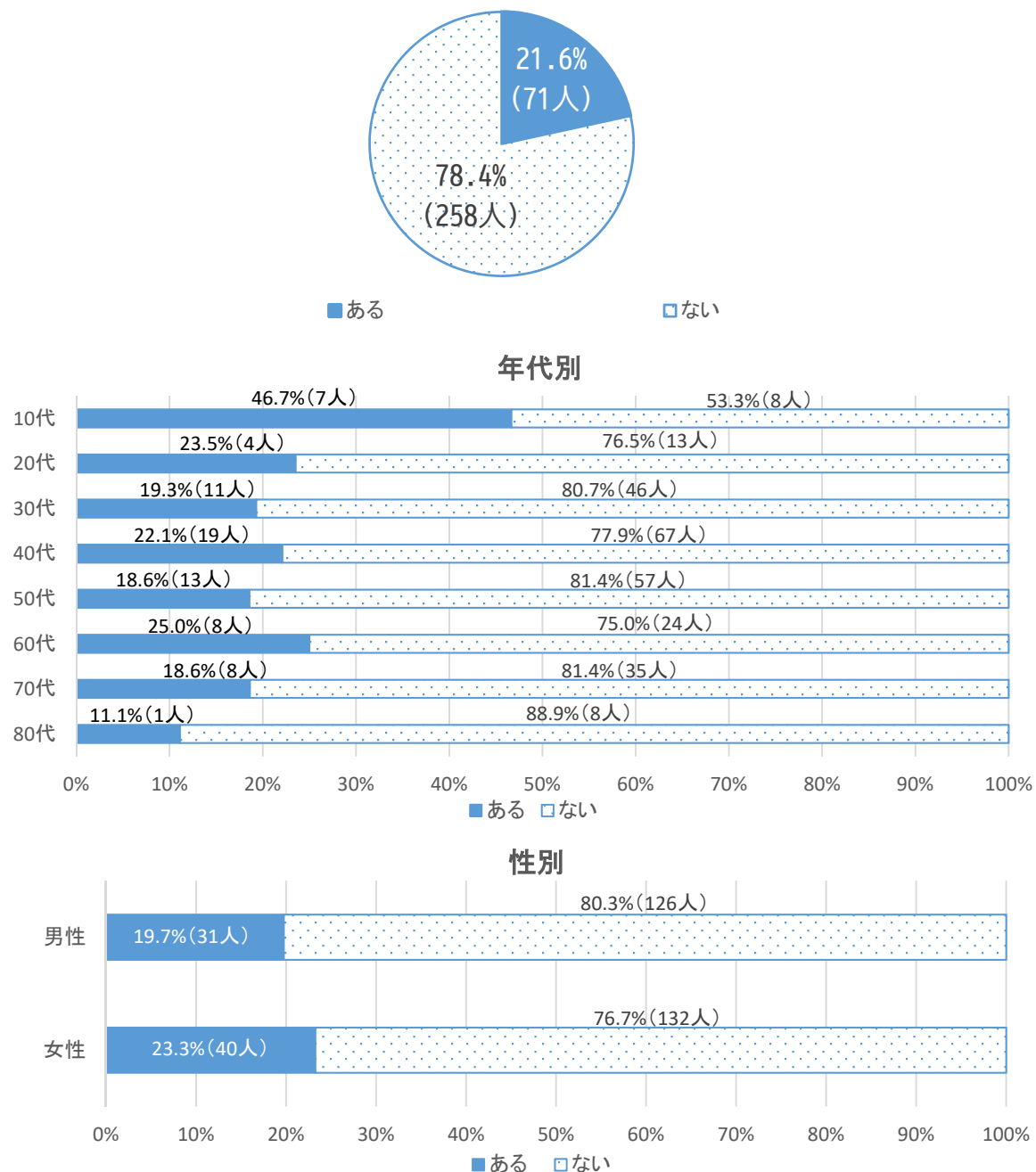
喫煙については、全体の90.4%の方が「吸っていない」と回答した。
 年代別では、「吸っている」と回答した方では、30代の14.0%が最も高く、次いで40代が11.6%であった。
 性別では、「吸っている」と回答した方は、女性が男性より7.7ポイント高い。
 前回調査では「吸っていない」の回答が89.9%で、今回0.5ポイント増加した。

第5章 その他

問 29 今までに収穫体験やグリーンツーリズム（※）などの農林漁業体験を経験したことがありますか？（1つ選択）

※農山漁村地域において、自然・文化・人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。

（回答者：329人）



農林漁業体験については、全体の21.6%の方が「経験がある」と回答した。年代別では10代の46.7%が最も高く、次いで60代の25.0%であった。また、80代の11.1%が最も低い。

性別では、「経験がある」と回答した方では、男性が女性より3.6ポイント高い。

前回調査では「経験がある」の回答が20.2%で、今回1.4ポイント増加した。

問 30 「第三次郡山市食育推進計画」について、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。（自由記述）

食育（計画）の認識について

- ・あまり認知されている方が少ないと思うので、インターネット等を通じて、広報活動をしてほしい。（20代・男性）
- ・計画があることを知っている人はごく一部だと思うので、もっとPRが必要。（70代・男性）
- ・子どもが小さい時にはパンフレットなどで食育について目にする機会がありましたが、子どもが独立した今は目にする機会がほとんどありません。（40代・女性）
- ・食育は大切なことだと思うし、これからは、今まで以上に重要なことになると思う。市民が実践できるような施策を打って貰えると嬉しい。（60代・女性）

食育推進のために必要なこと

- ・参加しやすいことが大切。（30代・女性）
- ・食育に興味があるが、インターネットや本等どれを手にしてよいか分からない。公共の場所に食育に関する掲示物などがあると自然に目に入ると思う。（30代・女性）
- ・継続的な啓発活動が重要である。（70代・男性）
- ・学識経験者の意見を積極的に取り入れるべき。（60代・男性）
- ・イベント、講習会など、身近な公民館などで、細かく開催してほしい。魅力あるフレーズや、特典やポイントがあれば、少しは足がむくのでは？（50代・女性）
- ・グリーンツーリズムなど、なかなか参加できない方々にも気軽に参加できるよう、近所の農家さん、空家、空き地を活用し、その周りの住民が気軽に収穫体験等できる仕組みづくり。（50代・女性）

食育の取組みについて

- ・近場で子どもと気軽に楽しめる農業体験などがあったら参加したい。（30代・女性）
- ・農業体験は、今まで以上に取り入れてよいかと思う。食べ物を育てることが楽しくなるような取り組みをすると、食の大切さが分かると思う。（30代・男性）
- ・地元でもっと食べてもらいたいものを勧めるべきだと思う。（40代・女性）
- ・郡山は休耕地がたくさんあるので、食育に栽培・収穫体験を積極的に取り入れるとよいと思う。我が家も畑をしているので、地域支援と畑を結びつけられないかと考えている。（50代・女性）
- ・最近メタボリックシンドロームになっている人が増えているように見える。適度な運動やストレス解消になるような方法を働きかけていく必要があると思う。（30代・女性）

その他

- 小さい子どもに野菜や魚や肉、果物がどんなふう to 穫れるのか、実際に見て触れて知ってほしい。(40代・女性)
- 子どもがいるので、食育に感心がある。小学生が参加できる食に関するイベントなどがあれば参加したい。(40代・女性)
- 外食では栄養・量を考えた選択を個人ができるようになればよいと思う。(30代・男性)
- 年齢問わず環境問わずに広めていただきたいと心から思う。(40代・女性)
- 食は大切だと思うが共働きの場合は帰宅が遅い場合もあり、なかなか毎日バランスのよい食事を作ることが難しい家庭も多いと思う。バランスのよいサラダや副食など夕方に販売してくれる施設があれば利用したい。(40代・女性)